

# 3.11はいかに語り継がれるか

## — 東日本大震災後7年・テレビ報道の検証 —

メディア研究部 原由美子・大高 崇

### 要約

2011年3月11日の東日本大震災発生からまもなく8年。NHK放送文化研究所では、発災当初から関連番組と、その放送内容の詳細を記録したメタデータを収集し、報道時間量や内容の推移を分析して継続的に研究成果を発表してきた。本稿では、震災関連報道が3月11日を中心とする1週間に集中していることに着眼し、2012年から2018年までの7年間における3月の震災関連報道について、分析対象を、3月11日を中心とする1週間、3月11日、発災時である午後2時46分を含む特集番組へと絞り込んで、メタデータ分析や番組視聴によってさまざまな角度から検証を行った。第Ⅱ章「3月11日を中心とした1週間の報道分析」では、報道量の経年推移、出現した名詞や動詞の推移をもとに、震災報道で何が語られたのかを追った。被災した岩手・宮城・福島では、岩手・宮城については、復興は徐々にではあるが進捗している様子が伝えられるが、報道量の減少が顕著であった。言及される自治体も石巻市や陸前高田市など一部に偏る傾向がみられた。道路や堤防などハード面での復興は進んだが、収入の安定や心のケアなどソフト面での復興が課題としてフォーカスされるようになった。一方、福島では、原発事故の影響による二次的被害が多発し、7年を経ても報道量の減少が抑えられており、紹介される県内の自治体の数も多かった。第Ⅲ章「3月11日の番組」では、この日の中継が被災地のどの場所から、何を映し出したのかなど、放送番組の映像を検証した。また、午後2時46分の黙とうシーン、特設番組のラストコメントなどに注目し、この7年での内容の変化を読み解いた。そこからは、中継される市町には震災を象徴する事物が存在していることが多いことが明らかになったほか、ある種のパターン化も見て取れた。また、当初は被災地の状況などを伝える内容が中心であったが、徐々に次の災害に備えるものへと、報道の比重が移っていくのが確認された。第Ⅳ章「まとめと考察」においては、検証を総括するとともに、今後の分析作業に向けた課題を抽出した。

### 目次

はじめに	68	を比較する	
第Ⅰ章 7年間の報道推移 (原)	68	Ⅱ-5 第Ⅱ章のまとめ	
Ⅰ-1 震災報道の検証状況		「復興」の岩手・宮城、「原発」の福島	
Ⅰ-2 毎年3月への集中傾向		第Ⅲ章 3月11日の番組 (原)	91
Ⅰ-3 3月11日を含む週への集中		Ⅲ-1 3月11日の関連報道・番組	
第Ⅱ章 3月11日を中心とした1週間の		Ⅲ-2 中継を含む番組	
報道分析 (大高)	71	Ⅲ-3 3月11日午後2時46分を含む番組	
Ⅱ-1 数値でみる変化 3.11週間の報道量の推移		Ⅲ-4 第Ⅲ章のまとめ	
Ⅱ-2 どこを伝えたのか?		第Ⅳ章 まとめと考察 (原・大高)	121
市町村別・テキスト件数の推移		Ⅳ-1 本稿検証のまとめ	
Ⅱ-3 何が語られたのか? 頻出する単語の変化		Ⅳ-2 今後の分析に向けて	
Ⅱ-4 キーワード「復興」「原発」 係り受けの推移		付表 先行研究リスト	126

# はじめに

2018年3月、東日本大震災発生から7年が経過した。この間、この未曾有の震災を、テレビはどのように伝えてきただろうか。

筆者らはこれまで、震災から3年、5年の節目をとらえて、それぞれの時点までのテレビ報道を検証してきた。ただし、すべての関連番組、関連報道を検証することは困難なので、3年経った時点ではテレビドキュメンタリー番組を、5年時点では、これに夜間のキャスターニュース番組を加えて、それぞれにおける報道量や内容の推移をみてきた<sup>1)</sup>。

そして、これまでの検証から、報道量が徐々に減少していること、震災のあった3月に報道が集中する傾向があることが明らかになった。そこで、今回は、各年3月に分析対象を絞り、この7年間にどのような報道が行われてきたかをみとめることにした。

今回の作業では、まず、毎年3月の1か月間の関連報道の状況をみとらううえで、特に報道が集中する3月11日を中心とした1週間の報道分析、さらに3月11日当日、3月11日午後2時46分を含む番組へと、対象を絞り込みながら、言及される内容や中継される地域、使用される映像など、より詳細な分析を加えていくことにした。

本稿の構成と執筆分担は以下の通りである。

はじめに (原)

第I章 7年間の報道推移 (原)

第II章 3月11日を中心とした1週間の報道分析 (大高)

第III章 3月11日の番組 (原)

第IV章 まとめと考察 (原・大高)



## 7年間の報道推移

### I-1 震災報道の検証状況

まず、震災発生からの7年間、東日本大震災関連報道について、どのような検証が行われてきたかを概観してみたい。

日本国内の学協会刊行物、大学研究紀要、国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどの学術論文情報を検索できる「CiNii Articles」を用いて「東日本大震災」と「メディア」の語をともに含む論文を検索すると、617件の論文・記事がヒットする。その発表年別の内訳をみると、

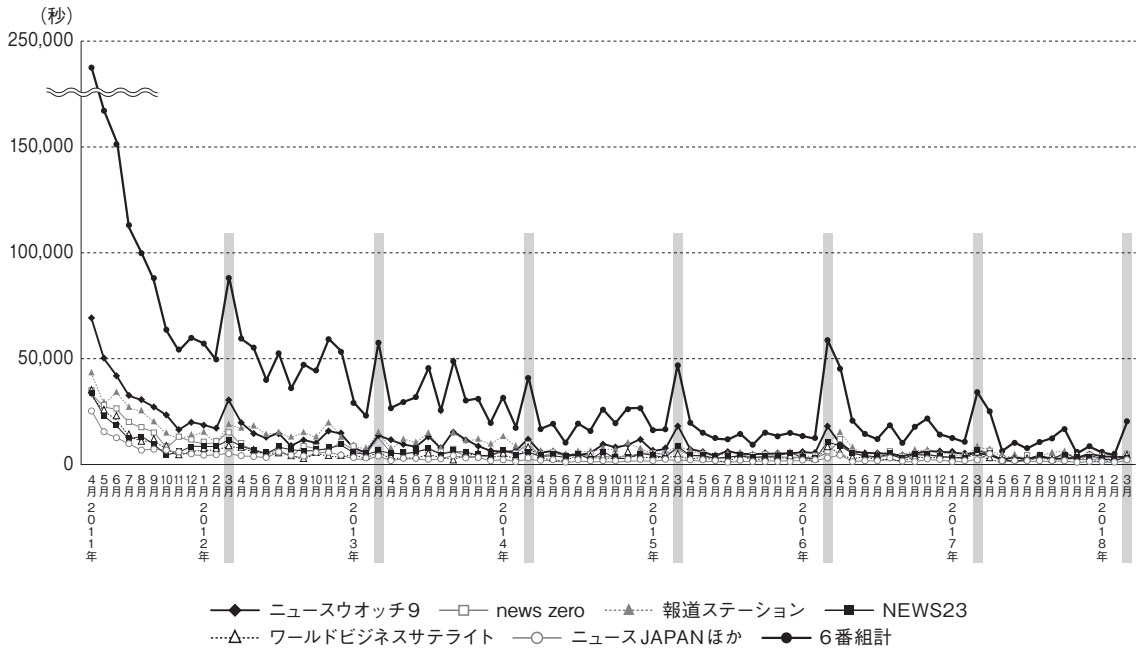
2011年	174件
2012年	204件
2013年	91件
2014年	61件
2015年	32件
2016年	21件
2017年	17件
2018年(9月まで)	17件 <sup>2)</sup>

と、2011年から2012年にかけて盛んに論じられていたものの、2012年をピークに2013年には半数以下に急減し、以降、漸減傾向が続いていることがわかる。

もっともこれらの中には、メディアの報道内容には直接関わらないものも含まれているので、マスメディアの震災報道に関連したものだけを抜き出してみた(文末付表1)<sup>3)</sup>。

また書籍に関しては、国立国会図書館の「国立国会図書館サーチ」を利用し、「本」の分類の中で「東日本大震災」「メディア」で抽出したもののほか、筆者らが収集したものを加えた(文末付表2)。

図1 夜間キャスター番組における震災関連報道の時間量推移



付表内の網かけは、2014年4月以降に発表されたものである。付表1に挙げた84本の論文・記事のうち63本が2011年から2014年3月までの3年間に発行されたものであり、その後の4年間に発行されたものは21本にとどまっている。また、書籍の場合、関連書籍をすべて網羅できているかどうかはわからないが、付表2に挙げた13本のうち10本が2014年3月以前に発行されたものである。

東日本大震災に関する報道のあり方について、震災直後は多くの議論があり、メディア現場の当事者自身や研究者らが盛んにその検証を行っていた。しかし、月日が経つにつれ、継続的な検証作業は少なくなってきているように見える。

これらの先行研究では、災害発生直後に有効だったメディアは何か、広範囲で甚大な被害の状況をどこまで正確に伝えられたか、科学的な知識を要する原発事故に関する報道のあり方など、さまざまな論点からの検証がなされてきた

が、長期にわたる報道の全体像を見つめた作業は多くない。

## 1-2 毎年3月への集中傾向

そのような中で、本稿と同様に、震災関連のテレビ番組を収集保存してアーカイブ化し、息長く研究・検証を続けているグループもいくつかある<sup>4)</sup>。これらのグループによる研究で、米倉(2017)、加藤(2017)など複数の研究者が震災報道の3月への集中を指摘している。

そこで、7年経過した2018年の報道も加えて、改めて7年分の東日本大震災関連報道の量の推移を確認した。7年間の全関連報道をみることは量的に膨大すぎて困難なため、筆者が以前行った作業同様、対象を夜間のキャスター番組に限定し、その中での東日本大震災関連報道の時間量推移をみた(図1)。

全体に毎年3月に報道量を増やしつつも、漸

減傾向が続いている。7年目の2018年も3月には報道量が若干増えた。

7年間の推移をみると、発災から毎月漸減傾向が続いていたものが、1年後の2012年3月に報道量が急増する。しかしその後は、毎年3月になると報道量が増えるものの、全般には減少傾向が続く。5年経った2016年3月にいったん大きく報道量が増えるが、その後はさらに減少が加速し、6年、7年と年を経るにつれ、3月の報道量さえも、それまでを下回り続けるようになっている。

図2は、キャスター番組に限らず、各年3月のみを抽出して、東日本大震災関連の報道の時

図2 3月震災関連報道量の推移

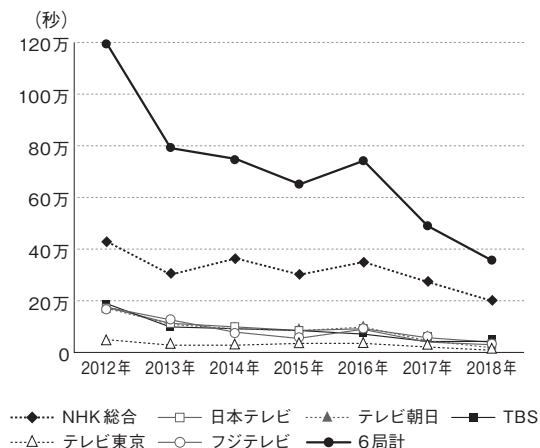
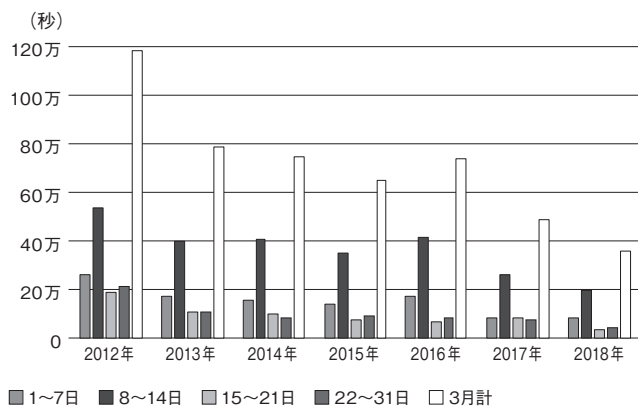


図3 3月震災関連報道量の推移(週比較)



間量を算出したものである。このデータをみても、2016年には少し増えるものの漸減傾向が続き、2017年、さらに2018年と減少し続けていることがわかる。

放送局別にみると、NHKは他の民放局よりかなり多く報道しているが、それでも減少傾向は変わらない。

### 1-3 3月11日を含む週への集中

毎年3月に関連報道が増えるといっても、毎日同じように報道されるわけではない。発災日の3月11日を中心に、その数日前から関連報道が増え始め、11日をピークに、日が経つにつれて減少する。毎年3月11日の報道が最も多いのは当然であるが、年によって曜日が異なるので、関連番組の編成にも差が生まれる。3月11日前後にシリーズ的に特集が組まれることもある。そこで3月を、3月1~7日、8~14日、15~21日、22~31日の4期間に分割し、それぞれの関連報道量を比較してみた(図3)。

やはり、どの年をみても3月8~14日、すなわち3月11日を中心とする1週間に、最も関連報道が多くなっている。

3月への集中といっても、より厳密に言えば、3月11日を中心とする1週間に報道が集中するとみることができる。そこで、7年間の報道内容の推移をみるにあたっては、3月11日を中心とする1週間にどのように報道が行われてきたかを分析するのが妥当だと考えた。次章でその分析結果を報告する。



## 3月11日を中心とした 1週間の報道分析

この章では、3月の東日本大震災関連報道の中でも際立って放送時間量が多い3月8日から14日までの1週間（以下「3.11週間」）について分析する。何が語られ、その内容がどう変化したか、この7年の傾向をあぶり出していきたい。

分析で使用するのは、以後「メタデータ」と総称するテキストデータである。メタデータについて詳しくは、原（2017）pp.8-11を参照されたい。簡単に触れておくと、東日本大震災発生直後から今に至るまで、「震災」「復興」「原発」「放射能」「エネルギー」の5つの語をメタデータに含むテレビのニュース・番組（以下「震災関連番組」）すべてを、番組の内容や関連情報の提供を行うJCC社のシステムを利用して収集した。該当する番組の比較的詳細な内容が書き起こされた1万3,868項目に及ぶ膨大なテキストデータが、メタデータである。これをSPSSとTRIANAという統計・分析ソフトを用いて分析を行った<sup>5)</sup>。

留意されたいのは、これは番組で使用されたナレーションやインタビューなど、文字化できる言語面でのテキスト情報が中心で、映像表現の分析ではないこと。そして、それらのテキストは一言一句を書き起こしたものではなく、内容の詳細についてある程度の要約を施したものだということである。しかしそれでも、7年間にわたる大量の放送番組の質的变化を読み解くにはかなり有効なデータである。

さて、3.11週間の分析は、まず、各年の全体での報道量がこの7年間でどう推移したかを確認する。そのうえで、被災した市町村ごとのテキスト件数の経年変化、使用される単語などの出現頻度の変化を分析し、「どこで」「何が」語ら

れたかを読み解いていく。さらに、キーワードとして設定した「復興」「原発」を含むテキストの量的・質的变化を分析・検討する。それぞれのテーマがどのような文脈で語られ、この7年間の傾向はどう変化したのか。俯瞰し、時に内容の詳細に踏み込んで熟視し、考察を深めていく。

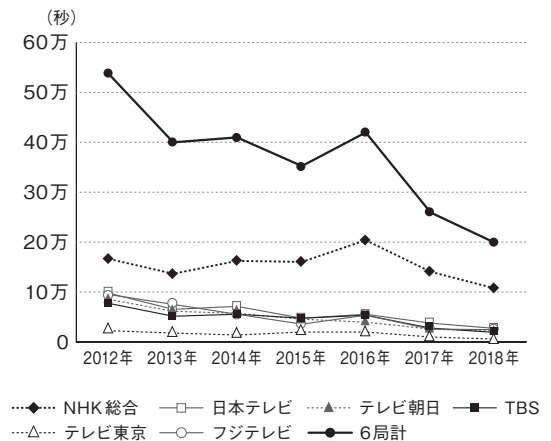
### II-1 数値でみる変化 3.11週間の報道量の推移

3.11週間のメタデータのNHKと在京キー5局、それぞれの震災関連報道の時間量（秒単位）の推移を表したのが図4である。

一見してわかるように、第I章の図2で示した3月の報道時間量の推移と同様の傾向となっている。局別の時間量ではNHKが最も多い。

6局計では震災から1年目の2012年が約54万秒（150時間）と最も多く、その後は、震災から3年（2014年）、5年（2016年）という節目の年は前年よりも時間量が増えているものの、全体として減少傾向にある。特に、震災から5年の節目を過ぎた翌年2017年の時間量は、前年の半数近くに激減した。2018年は減少の「幅」は

図4 3.11週間の関連報道量の推移



抑えられたが、約20万秒（55時間）であり、2012年と比較すると3分の1近くにまで減っている。

多くのチャンネルが3.11週間には震災特番に時間を割いていた当初と比べると、隔世の感があるが、もっとも、時間数のみをみて「テレビの震災に対する関心が薄まった」と断じるのは早計だ。ここでは「量的には確実に少なくなっている」ことを確認し、では「質的」にはどう推移したかについて、以下の節で分析をする。

## II-2 どこを伝えたのか？ 市町村別・テキスト件数の推移

全体の報道量が減少する中、テレビは何を伝えてきたのか。東日本大震災は、岩手・宮城・福島の3県をはじめ、被災地は広範囲に及んだ。被害状況や復興に向けた課題は、地域ごとに異なると言ってよいほどさまざまだ。3.11週

間の市町村ごとのテキスト件数の推移から、報道は何に注目し、その視点がどう変化したかを探っていく。

7年間での合計テキスト件数が多かった30の市町村ごとの件数の推移を示したのが、図5である。

通年での上位5市町は、2位の陸前高田市（岩手県）を除けば、石巻市・仙台市・気仙沼市・南三陸町と、宮城県が大勢を占める。

だが、30市町村を、県別に置き換えて示した図6をみると、様相は変化する。

これをみると、宮城県と福島県の各市町村の言及の頻度（テキスト件数）が、比率として毎年ほぼ同程度であり、岩手県の頻度が最も低い、半分程度に抑えられていることがわかる。先行研究での結果と同様に、7年間の3.11週間においても、宮城県、福島県、岩手県の順となっている。

上位5市町は宮城と岩手（陸前高田市）であるにもかかわらず、福島が宮城と拮抗するほど言及されているのはなぜか。

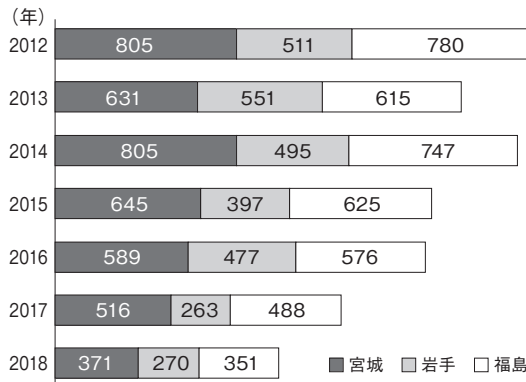
図5で上位5市町のテキスト件数の推移に注目すると、1位の石巻市は、2012年は268件の言及があったが、2015年には161件、2018年は83件と、確実に減少している。2位の陸前高田市は2012年が153件で、その後2016年までは同程度の件数であったが、直近の2年間は大きく減少。3位の仙台市も漸減。4位気仙沼市、5位南三陸町は半減ないし3分の1にまで減少、となっている。これらは前節でみた全体の報道量の減少によるところが大きく、当然の結果ともいえる。

図5 市町村別 言及数の推移(上位30位まで)

市町村	2012年	2013	2014	2015	2016	2017	2018	合計
1 石巻市	268	217	235	161	145	74	83	1,183
2 陸前高田市	153	226	137	161	157	54	80	968
3 仙台市	191	102	132	140	153	92	107	917
4 気仙沼市	182	180	162	86	133	84	81	908
5 南三陸町	157	84	110	91	156	70	48	716
6 浪江町	94	86	121	80	105	105	59	650
7 宮古市	102	52	116	60	103	67	52	552
8 いわき市	76	83	123	70	81	50	32	515
9 南相馬市	88	109	66	90	81	39	36	509
10 大槌町	92	132	53	46	66	54	57	500
11 釜石市	62	62	86	59	73	31	40	413
12 名取市	50	57	71	78	88	16	51	411
13 女川町	40	46	70	87	86	26	32	387
14 大熊町	103	36	62	80	40	39	17	377
15 富岡町	43	22	66	62	25	46	70	334
16 双葉町	72	33	41	63	35	18	25	287
17 大船渡市	59	61	32	48	33	19	22	274
18 檜葉町	33	39	29	39	81	25	14	260
19 郡山市	63	47	34	35	19	26	15	239
20 飯舘村	34	23	39	11	34	49	34	224
21 福島市	39	41	49	26	29	26	10	220
22 相馬市	40	31	20	18	16	22	14	161
23 田老町	19	11	45	10	32	26	16	159
24 会津若松市	50	26	25	7	9	10	1	128
25 東松島市	29	15	12	19	12	10	12	109
26 川内村	20	23	14	24	8	5	4	98
27 田村市	7	5	49	2	1	5	2	71
27 広野町	16	10	7	10	8	15	5	71
29 川俣町	11	10	6	16	2	14	9	68
29 二本松市	21	16	14	3	7	4	3	68

■宮城 □岩手 □福島

図6 県別 言及数の推移



だが、福島県の市町村は、そもも言いきれない。6位の浪江町は、2012年（94件）より2016年、2017年（いずれも105件）のほうが上回っている。ただし、2018年は59件で大きく減少した。20位の飯館村は、2012年と2018年が同数（34件）。15位の富岡町は、2012年（43件）から増加の傾向を示し、2018年（70件）が最も多く言及されている。他の市町村も、それぞれの母数は少ないものの、減少の「幅」が抑制されている、あるいは増加しているのがわかる。

また、上位30の市町村のうち、宮城県が7市町、岩手県が6市町なのに対して、福島県は17市町村が登場する。自治体ごとの報道件数では、福島県内の各市町村は宮城・岩手の上位勢には及ばないものの、報じられる市町村の数の多さが際立つ。

さらに、表1に示す各年のテキスト件数の多い上位5市町村をみればわかるように、宮城・

岩手の5市町は各年とも順位の高い「常連」である。これらの市町は、被災地が復興していく過程を見せる定点観測の場ともなっているのうかがえる。と同時に、被災地が広範囲に存在する中で、報道が、いわば「定番化」した場所に限定されている（偏っている）傾向を示しているともいえよう。例えば、津波と地震で311棟が建物流失や全壊した岩手県野田村や、680人の死者が出た宮城県山元町は圏外である。これらの被災地である自治体は、発災当初、交通網が壊滅し取材陣が現地へ入れなかったことなどの理由から報道量が少なかったことが、先行研究の田中・原（2012）でも指摘されているが、その後の7年間も報道量が低水準のまま推移したことが明らかとなった。

一方、福島の場合、上位5市町には、2013年と2015年南相馬市、2014年いわき市、2017年浪江町、2018年富岡町と、注目される自治体が年によって入れ替わっていることがわかる。

この要因として、県内の広い範囲（多くの市町村）で主に原発事故の影響による課題が解消されず、避難住民の帰還をめぐる問題や、街の再建が他県の被災地と比べて大きく立ち遅れている状況が挙げられる。福島県は、報道すべきことがあまり減らない、という傾向を表しているのだ。これについては、Ⅱ-3-2「『名詞+動詞』の推移を読み解く」と、Ⅱ-4「キーワード『復興』『原発』係り受けの推移を比較する」で詳述する。

表1 市町村別 言及数（上位5位）

	2012年	2013	2014	2015	2016	2017	2018
1位	石巻市	陸前高田市	石巻市	石巻市	陸前高田市	浪江町	仙台市
2位	仙台市	石巻市	気仙沼市	陸前高田市	南三陸町	仙台市	石巻市
3位	気仙沼市	気仙沼市	陸前高田市	仙台市	仙台市	気仙沼市	気仙沼市
4位	南三陸町	大槌町	仙台市	南三陸町	石巻市	石巻市	陸前高田市
5位	陸前高田市	南相馬市	いわき市	南相馬市	気仙沼市	南三陸町	富岡町

■宮城 □岩手 □福島

（※2015年の石巻市と陸前高田市は同数）

## II-3 何が語られたのか？ 頻出する単語の変化

### II-3-1 単語ランキングの推移から読み解く

続いて、メタデータのテキストすべての単語（名詞）を抽出し、単語出現頻度の推移を分析する。100位までの結果が表2（76-77p）である。これを手がかりとして概観し、併せて単語それぞれの内容の詳細にも触れながら、「何が語られたか」を探っていく。

「震災（大震災）」「復興」「原発」が、7年を通じて上位にあるが、先述のようにメタデータがこれらの単語をデータ収集の条件としており、当然の結果であるため、これらについてはここで論じない。「復興」「原発」で語られた内容については、II-4で詳述する。また、名詞を機械的にランキングするため、「コメント」「中継」「スタジオ」など放送において当然用いられる名詞や、前節で伝えた地名などについても、ここで論じないこととする。

そのうえで、出現頻度が高く、この7年間で安定的に上位に登場する名詞として、「津波」「被災地」「支援」「仮設」「避難」など、東日本大震災を象徴する単語が挙がっている。この点は予測通りである。

この表を子細にみていくと、以下のような注目すべき単語がある。

- (1) 「被災者」の下降と浮上
- (2) 「死者」「行方不明者」と「犠牲者」の関係性
- (3) その年だけランクインした単語

これらについて、内容の詳細も交え、震災報道の傾向とその変化をとらえよう。なお、本章で、これ以降に記載する放送内容の抜粋（カギカッコ入り太字で表示する部分）は、ナレーションやインタビュー等がある程度要約したメタデータの記述である。また、例えば「被災者」は、「被

災された方々」などの類似する言い回しも含めて「被災者」としてカウントしている。分析ソフトの、類似語・同義語を予測して一括りの単語としてカウントする機能を活用したためである。

#### (1) 「被災者」の下降と浮上

「被災者」は、2012年から2015年までは35～50位を推移し、一定の出現数を保っている。しかし、2016～2017年には圏外となり、再び登場した2018年は54位である（表3）。

原（2015）では、2014年までを分析し、「被災者」の表現や描写について詳述している。ここでは、再浮上した2018年の内容の詳細にも踏み込みつつ、ひも解いてゆこう。

2012年での「被災者」は、「仮設住宅で暮らす被災者、再建を目指す被災者」（NHK）、「厳しい決断を迫られている被災者」（フジテレビ）など、“現在進行形の被災者”を伝えていることが多い。

一方、2年ぶりにランクインした2018年での「被災者」はどうか。「7年前の東日本大震災被災者の子供たちの作文紹介」（NHK）、「被災者に寄り添った地域限定の災害FM局のひとつが閉局」（日本テレビ）など、“かつての被災者”というニュアンスが強まっている。当初の4年間は、被災者そのものとして表現されていたが、次第に「被災を経験した人」へと変わり、復興の進捗によって、かつての被災者が、もと

表3 「被災者」の出現順位

	順位
2012年	35位
2013年	50位
2014年	41位
2015年	50位
2016年	圏外
2017年	圏外
2018年	54位



もとの「住民」「生活者」として描かれていく様子が伝わってくる。

もっとも、2018年でも、「災害援護資金返済に被災者の苦悩」(TBS)や、『自分は被災者だ』と今も感じている人がおよそ6割にのぼっている(中略)専門家は『仮設住宅に1万人以上が暮らすなど復興の遅れが背景にある』と指摘している(NHK)など、なお課題を抱え続ける「現在進行形の被災者」を描くものも少なくない。

## (2) 「死者」「行方不明者」と「犠牲者」の関係性

3月11日午後2時46分の黙とうを中心とする3.11週間の報道は、必然的に「追悼」の色が濃くなると思われるが、「死者」「行方不明者」「犠牲者」の出現は決して多くはない。

「死者」「行方不明者」については、追悼式中継などで、「死者〇人・行方不明者〇人」と表現する機会は毎年一定数ある。ここで「犠牲者」に注目すると、2015年以降、ずっと圏外となり、見当たらなくなっている(表4)。

さらに細かく分析するために、「死者」と「犠牲者」、それぞれの出現数の推移を、放送局別に示したのが図7、8(78p)である。双方とも減少傾向の中、局別でみると、「死者」はTBS・フジテレビが多い。これに対して、NHKは2016年を除いて、「死者」は「犠牲者」より少ない。また、日本テレビでは2015年までは「犠

牲者」が多く、それ以降は「死者」がやや多くなっている。

両表現の使い分けを追うと、「死者」は前述のように、「石巻市は(中略)死者・行方不明者は3,500人超」(NHK・2012年)といった、震災の爪痕の大きさを統計として示す際に用いるのがほとんどである。こうした統計を紹介する際、NHKは「大川小学校は74人の児童と教職員など10人が犠牲になった」のように「犠牲者」に置き換えるケースが民放に比べて多くみられる。

また、犠牲者の表現は、

「犠牲者を追悼する式典」(NHK)

「選手たちが1分間の黙とう。犠牲者を悼んだ」(NHK)

「市では追悼と復興を願い(中略)犠牲者の数の凧をあげた。震災の死者は1万5,881人」(テレビ東京)

「(災害救助活動で)自衛隊が捜索したのは、生存者でなく犠牲者だった」(TBS)

などの言い回しが複数存在する。これらを見ると、「取材対象」に結びつけて死者に言及する際、ある種の心配りとして「犠牲者」と表現する傾向が見て取れる。

これは筆者の受ける印象であるが、「死者」と言えば客観的で、統計的、直接的である。正しいが、冷たい。一方「犠牲者」には、失われた尊い生命への敬意がこもる。また、「死者」よりも間接的で、視聴者に与える刺激の度合いが低いように感じられる。

なお、『広辞苑第一版』(1955)では、「犠牲」の意味は、「いけにえ」や、「身命を捧げて他のために尽くすこと」などとされていた。もともとは、「すすんで生命を捧げる」行為が「犠牲」であり、天災などで亡くなることをそのように呼んではいなかった。時が経ち、『広辞苑第三版』

表4 「死者」「行方不明者」「犠牲者」の出現順位

	死者	行方不明者	犠牲者
2012年	95位	86位	89位
2013年	58位	61位	57位
2014年	96位	87位	80位
2015年	圏外	圏外	圏外
2016年	76位	71位	圏外
2017年	圏外	圏外	圏外
2018年	圏外	81位	圏外

表2 単語(名詞)出現頻度 (1~50位)

順位	2012年(3,178件)		2013(2,191)		2014(2,273)		2015(1,921)		2016(2,098)		2017(1,207)		2018(1,000)	
	単語	件数	単語	件数	単語	件数	単語	件数	単語	件数	単語	件数	単語	件数
1	大震災	1,760	コメント	1,229	大震災	1,204	大震災	1,142	東日本	1,110	大震災	629	大震災	615
2	コメント	1,744	大震災	1,156	東日本	1,183	東日本	1,131	大震災	1,100	東日本	624	東日本	609
3	東日本	1,732	東日本	1,150	映像	917	映像	778	映像	875	原発	499	映像	412
4	映像	1,454	映像	962	震災	878	震災	711	震災	780	映像	465	震災	410
5	原発	868	福島	685	復興	789	復興	663	福島	676	福島	436	復興	353
6	震災	833	震災	684	福島	709	福島	614	原発	649	震災	397	福島	313
7	福島	817	原発	591	原発	601	コメント	592	復興	606	コメント	343	コメント	310
8	復興	798	復興	591	被災地	571	原発	452	コメント	595	復興	319	原発	277
9	被災地	633	被災地	533	コメント	511	被災地	450	津波	497	事故	308	人	239
10	宮城	540	津波	400	宮城	469	宮城	420	宮城	485	避難	229	津波	229
11	事故	500	宮城	384	津波	444	人	397	事故	460	宮城	229	被災地	199
12	津波	494	岩手	360	人	433	津波	366	人	448	津波	222	事故	188
13	東京	422	事故	340	岩手	392	岩手	336	被災地	442	人	222	宮城	186
14	宮城県	414	中継	343	事故	386	住宅	281	中継	375	福島県	194	今	185
15	福島県	377	宮城県	327	中継	326	中継	271	今	361	被災地	190	避難	177
16	中継	367	人	320	東京	307	事故	265	岩手	305	今	189	岩手	159
17	スタジオ	362	福島県	289	住民	290	今	260	住民	286	中継	179	地震	147
18	人	357	今	282	宮城県	284	支援	251	地震	268	地震	172	福島県	147
19	岩手	346	住宅	232	避難	270	宮城県	246	宮城県	265	岩手	162	宮城県	139
20	日本	331	岩手県	228	今	269	福島県	241	避難	257	東京	158	中継	129
21	去年	313	東京	226	住宅	268	東京	234	住宅	255	指示	142	災害	127
22	支援	306	スタジオ	222	福島県	263	仮設	212	福島県	255	住宅	140	住宅	127
23	被害	290	陸前高田市	211	地震	259	被害	207	東京	241	東京電力	138	東京	125
24	住民	279	東京電力	199	被害	222	日本	186	被害	235	仮設	131	発生	122
25	東京電力	278	住民	195	地区	218	住民	186	仮設	233	宮城県	118	スタジオ	118
26	地震	269	被害	192	仮設	207	地震	185	町	226	被害	118	仮設	116
27	岩手県	267	避難	186	発生	202	各地	179	岩手県	209	去年	117	住民	115
28	政府	267	日本	178	町	198	きょう	177	高浜原発	205	岩手県	114	岩手県	113
29	今	265	仮設	173	石巻市	198	発生	167	運転	189	地域	113	指示	111
30	がれき	247	紹介	172	国	194	町	163	支援	188	日	112	去年	107
31	住宅	247	政府	169	岩手県	193	災害	163	対策	180	住民	111	支援	100
32	避難	229	石巻市	166	安倍	182	岩手県	163	日	177	ロゴ	105	町	100
33	仮設	219	地震	158	支援	182	安倍	162	停止	175	支援	104	いま	99
34	国	217	追悼式	150	スタジオ	176	スタジオ	160	去年	173	浪江町	102	日	96
35	被災者	216	気仙沼市	144	地域	169	国	156	国	172	スタジオ	100	地域	94
36	石巻市	211	各地	142	東北	162	地区	154	災害	172	町	98	被害	88
37	紹介	202	支援	141	東京電力	159	陸前高田市	150	スタジオ	171	問題	96	当時	87
38	発生	194	去年	141	政府	159	避難	146	当時	168	調査	90	東京電力	86
39	野田	193	国	138	災害	154	石巻市	137	きょう	168	状況	88	ロゴ	80
40	原子力	185	地区	137	思い	154	去年	135	地区	167	災害	86	提供	77
41	予告	183	きょう	133	被災者	149	対策	134	仮処分	166	日本	85	仙台	76
42	地域	182	大槌町	128	対策	149	除染	133	影響	164	予告	84	子ども	75
43	処理	180	現在	127	課題	144	東京電力	133	地域	163	いじめ	83	場所	74
44	首相	176	追悼	125	各地	143	ロゴ	133	東京電力	159	提供	83	きょう	74
45	各地	172	地域	124	原子力	142	東北	131	南三陸町	156	当時	82	地区	73
46	影響	171	提供	123	計画	141	首相	129	大津	153	原子力	80	現在	73
47	対策	167	予告	123	去年	141	代表	129	原子力	151	区域	80	陸前高田市	72
48	追悼	166	声	120	前	141	防災	128	発生	147	思い	79	各地	72
49	問題	166	安倍	119	場所	136	思い	128	ロゴ	141	子ども	78	石巻市	71
50	区域	161	被災者	118	日	135	被災者	122	関西電力	139	未来	78	思い	71

## (51～100位)

2012年(3,178件)			2013(2,191)			2014(2,273)			2015(1,921)			2016(2,098)			2017(1,207)			2018(1,000)		
順位	単語	件数	単語	件数	単語	件数	単語	件数	単語	件数	単語	件数	単語	件数	単語	件数	単語	件数		
51	南三陸町	157	区域	118	防災	132	現在	122	決定	137	米国	77	富岡町	70						
52	教授	157	いま	118	気仙沼市	132	日	122	子ども	137	教授	77	廃炉	70						
53	活動	155	発生	117	問題	131	全国	121	陸前高田市	137	現在	77	予告	70						
54	方針	155	代表	116	地元	131	地域	117	計画	136	帰還	76	被災者	69						
55	追悼式	154	ロゴ	115	陸前高田市	129	地元	117	指示	134	解除	76	心	68						
56	災害	151	町	114	首相	128	政府	115	東北	133	あす	76	国	68						
57	現在	149	犠牲者	110	区域	128	NEWS	115	地裁	132	南三陸町	70	地元	66						
58	気仙沼市	148	死者	109	現在	128	影響	114	今後	132	対策	70	震災前	66						
59	防災	147	対策	109	避難生活	123	追悼式	112	方針	131	男性	68	生活	65						
60	町	145	小学校	108	声	123	追悼	112	思い	131	地区	66	学校	64						
61	調査	145	行方不明者	107	生活	122	言及	112	日本	130	石巻市	66	公営住宅	64						
62	全国	145	課題	105	提供	122	場所	111	政府	128	震災前	66	帰還	62						
63	陸前高田市	143	災害	104	きょう	121	活動	107	状況	128	影響	66	気仙沼市	62						
64	地区	142	作業	103	追悼式	120	課題	104	場所	125	地元	66	避難生活	61						
65	地元	142	教授	102	状況	119	教授	100	家族	124	全国	66	声	60						
66	自治体	141	当時	99	影響	118	予定	100	課題	124	国	65	NHK	59						
67	提供	141	場所	99	心	117	震災前	99	作業	124	予定	64	課題	58						
68	きょう	141	全国	99	ロゴ	117	問題	99	予告	124	発生	64	再建	57						
69	放射性	138	石巻	98	浪江町	116	計画	97	言及	123	東芝	63	全国	55						
70	米国	133	調査	98	いわき市	114	仙台市	94	石巻市	122	事業	63	浪江町	54						
71	大臣	130	南相馬市	98	直後	114	声	93	行方不明者	121	代表	62	日本	54						
72	小学校	129	思い	95	日本	113	南三陸町	91	現在	120	宮古市	62	教授	54						
73	日	126	ニュース	95	予告	113	未来	90	提供	118	廃炉	61	祈り	53						
74	代表	124	防災	93	全国	111	作業	90	原子炉	116	東北	61	除染	53						
75	課題	124	遺族	91	委員会	110	方針	90	地元	115	震災後	61	自宅	53						
76	社長	123	きのう	91	南三陸町	110	状況	90	死者	114	防災	59	女性	52						
77	ニュース	123	直後	90	家族	110	前	90	震災前	114	家族	59	防災	52						
78	思い	122	NEWS	90	除染	109	建設	89	男性	114	政府	58	困難	52						
79	安全	118	物質	89	宮古市	108	祈り	88	除染	113	声	58	東北	52						
80	当時	117	生活	88	犠牲者	105	予告	88	震災後	113	仙台	57	犠牲	52						
81	天皇陛下	116	放射性	87	男性	105	提供	87	防災	112	気仙沼市	57	行方不明者	51						
82	企業	116	地元	87	ニュース	105	自宅	86	区域	111	きょう	57	名取市	51						
83	石巻	115	問題	86	自宅	100	南相馬市	85	生活	107	放射性	56	男性	51						
84	世界	115	家族	85	小学校	98	家族	85	放射性	106	危機	56	政府	51						
85	直後	115	現状	85	予定	98	今後	85	浪江町	105	原子炉	55	母	50						
86	行方不明者	114	南三陸町	84	NEWS	98	仙台	84	高校	105	商店街	55	大槌町	50						
87	受け入れ	114	祈り	84	行方不明者	97	区域	83	全国	105	困難	55	解除	49						
88	NHK	114	会社	84	今後	97	小学校	83	女性	104	NHK	55	予定	49						
89	犠牲者	113	影響	84	作業	97	遺族	83	活動	104	高校	54	南三陸町	48						
90	仙台市	113	東北	83	三陸	96	女性	83	帰還	103	小学校	54	ふるさと	48						
91	物質	112	浪江町	82	事業	96	心	83	いま	103	場所	54	震災後	48						
92	今後	112	世界	81	建設	96	当時	83	直後	102	写真	54	調査	47						
93	仙台	111	命	80	遺族	94	男性	82	各地	99	生活	53	佐藤	47						
94	警戒	110	自治体	79	命	94	生活	82	気仙沼市	98	各地	53	仙台市	47						
95	死者	109	撮影	79	明日	94	写真	81	物質	97	何	53	影響	47						
96	細野	109	除染	78	死者	93	犠牲	81	小学校	97	避難者	52	宮古市	46						
97	解説	109	犠牲	78	方針	93	調査	81	声	96	自宅	52	直後	46						
98	メッセージ	108	エネルギー	77	家	92	大熊町	80	今年	95	物質	52	気仙沼	44						
99	本部	107	いわき市	77	高台	92	女川町	80	心	93	課題	52	家族	44						
100	会社	106	周辺	76	当時	91	廃炉	80	人々	93	明日	52	原子力	44						

図7 「死者」の出現数(放送局別)

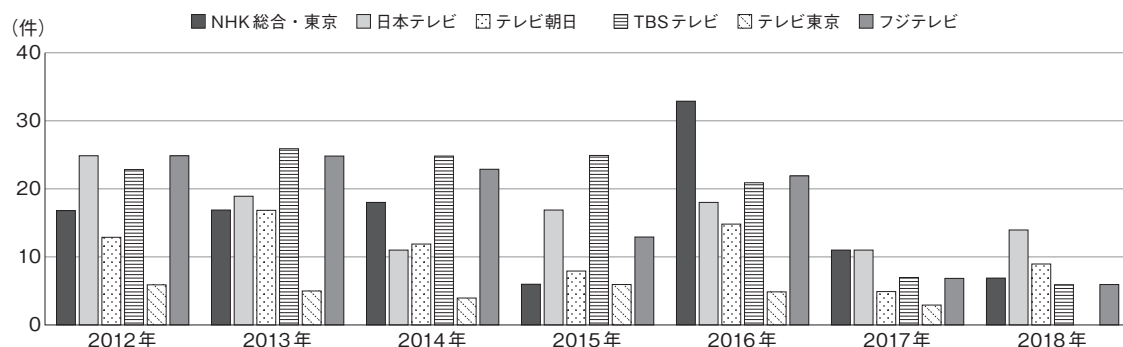
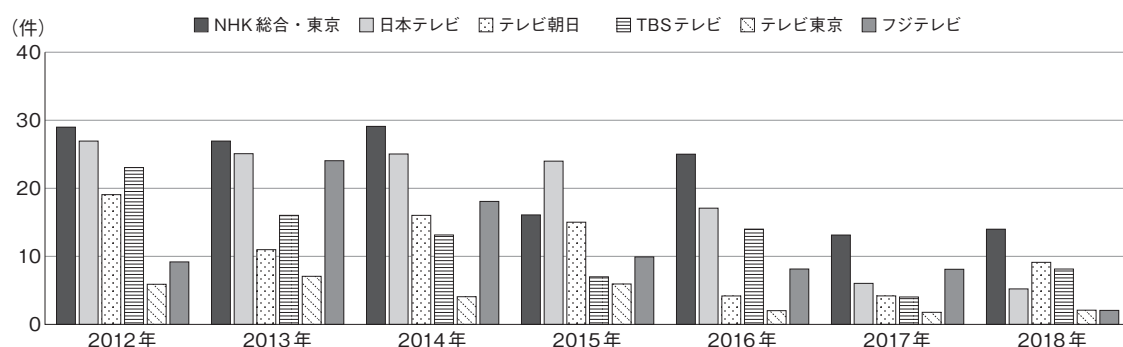


図8 「犠牲者」の出現数(放送局別)



(1983)から、「自分の意志によらず戦争・天災・事故の巻きぞえなどで生命を失ったり傷ついたりすること。『戦争の一者』『交通禍の一になる』』との意味が加わっている。災害報道における「犠牲者」という表現は、現場に接した取材者の実感を反映して生まれたものかもしれない。このあたり、現場の制作者たちはどのような試行錯誤と判断をしたのであろうか。今後の分析においては、ぜひとも制作者の考えを伺ってみたい。

### (3) その年だけランクインした単語

出現頻度100位までに、ある年だけランクインし、その後は見当たらない単語がある。これらから、その時々状況と、テレビの関心事がみえてくる。

#### ●2012年「がれき」(30位)

震災で発生したがれきを被災地以外で受け入れる広域処理が進まない問題で、当時の野田首相や細野環境相らが各自治体に受け入れを求める動きを盛んに伝えている。被災地の復興が未だ軌道に乗っていないことがうかがえる。

#### ●2013年「エネルギー」(98位)<sup>6)</sup>

この年のみ、辛うじて上位100ワードに入ったエネルギー。2011年の震災発生以降、今後はエネルギー問題が議論の対象になると予測してメタデータ収集のキーワード条件に入れたのだが、ほとんど話題を占めることはなかった。被災と復興、原発事故の影響、防災などが3.11週間の主たるテーマとなる中、これからのエネルギーはどうあるべきかの議論は、このまま傍流に甘んじ続けるのだろうか。

また、「放射能」も当初よりキーワードの条件に指定した語であるが、上位100には1度も登場しなかった。「除染」「廃炉」「放射性」「物質」など関連ワードはあり、原発問題への注目の高さを表してはいるものの、ずばり「放射能」という表現に対し、報道は意外なほど抑制的であった。

#### ●2016年「高浜原発」(28位)、「仮処分」(41位)

2016年1月と2月に再稼働した福井県の高浜原発3、4号機について、3月9日、大津地裁が運転差し止めを命じる仮処分を決定した。翌10日、関西電力は3号機の運転を停止しつつ、14日には地裁に対し異議申し立てを行った。事故直後の脱原発への機運が高まった時期から、再稼働に向けた力が強まる時期に移りつつあることを象徴するホットワードといえよう。なお、高浜原発は2017年3月に大阪高裁が仮処分を取り消し、同年に改めて再稼働した。2018年11月現在、高浜のほか、大飯、伊方、川内、玄海せんだいのあわせて5つの原発で合計9基が再稼働している<sup>7)</sup>。

#### ●2017年「いじめ」(43位)

原発事故で横浜市に自主避難していた子どもがいじめを受けていた。子どもが当時の心境を記した直筆の手記も公開された。NHKが早稲田大学などと協力して行ったアンケート調査では、いじめを受けた子どもの6割以上が“福島から来たことを隠すようになった”と答えている。大きくクローズアップされた「いじめ」だが、翌2018年には圏外である。

### II-3-2 「名詞+動詞」の推移を読み解く

3.11週間、テレビで何が語られたのか。より詳細に読み解くために、名詞と動詞の「係り受け」での出現頻度が多いものをリストアップし、年ごとに分析する。「○○(名詞)が、○○(動

詞)した」などの文単位で抽出することで、それぞれの年に語られた文脈をさらにクリアにする試みである。

各年の10位までの頻出「係り受け」が表5(80p)である。

#### 2012年「震災そのもの」への対応が続く

3位の「がれき・発生する」に象徴されるが、前述したように、がれきの処理に関する表現が目立つ。4位「受け入れ・要請する」、6位「文書・要請する」は、政府が各自治体にがれきの受け入れを文書等で要請する内容のものである。また、2位の「大震災・発生する」でも、半数近くの47件が「大震災で発生したがれき」の問題に言及している。

1年前の震災直後から生じた、目に見えるがれきをどう処理するか。街を再建するための前提が未だ解決していない中、国の政治判断とその動向に注目が集まっているのがこの年の特徴だ。

では、被災地の様子はどうか。1位の「被害・受ける」では、文字通り被害を受けた街や人々の現状、すなわち被害そのものを伝えている。

「津波で被害を受けた青森県階上町はしかみでは、町が管理する3つの漁港を統合する案が浮上している」(NHK)

「津波で大きな被害を受けた海沿いの被災地からは事業の再開や雇用のめどが立たないという悲鳴が聞かれる」(NHK)

「(前年の自殺者数について)警察庁などは東日本大震災の影響で、経済的な被害を受けるなどしたため、5月に急増した可能性がある」とみている」(TBS)

9位「津波・流す」、10位「住宅・暮らす」も、もとの暮らしに戻れない被災者たちに焦点を当ててるものが多い。三陸鉄道の試運転開始など明

表5 年別 係り受け (名詞+動詞) 出現数 (上位10位)

2012年(3,178件)				2013(2,191)			2014(2,273)			2015(1,921)		
順位	係り元	係り先	件数	係り元	係り先	件数	係り元	係り先	件数	係り元	係り先	件数
1	被害	受ける	128	被害	受ける	86	被害	受ける	91	被害	受ける	99
2	大震災	発生する	104	追悼式	行われる	60	スタジオ	コメントする	59	追悼式	行われる	56
3	がれき	発生する	56	声	聞く	41	大震災	迎える	53	未来	つなぐ	53
4	受け入れ	要請する	51	復興	進む(否定)	40	人	いる	46	キオク	つなぐ	49
5	津波	受ける	51	人	避難する	40	住宅	暮らす	42	人	いる	47
6	文書	要請する	50	住宅	暮らす	38	復興	実感する	40	津波	流す	46
7	考え	示す	49	今	伝える	35	時間	かかる	37	復興	進む	44
8	様子	紹介する	49	各地	行われる	33	避難生活	送る	37	大震災	迎える	41
9	津波	流す	47	大震災	迎える	33	人	避難する	36	人	亡くなる	40
10	住宅	暮らす	46	区域	指定する	31	指示	解除する	35	住宅	暮らす	37

2016(2,098)				2017(1,207)			2018(1,000)		
順位	係り元	係り先	件数	係り元	係り先	件数	係り元	係り先	件数
1	被害	受ける	131	指示	解除する	82	指示	解除する	52
2	地震	言及する	68	地震	言及する	67	スタジオ	コメントする	42
3	停止	命じる	62	被害	受ける	54	被害	受ける	37
4	仮処分	命じる	59	危機	見過ごす	38	地震	言及する	35
5	人	いる	58	深層	見過ごす	38	復興	言及する	32
6	運転	停止する	50	大震災	言及する	38	対話	言う	29
7	仮処分	決定する	49	復興	言及する	38	話	聞く	26
8	指示	解除する	47	住宅	言及する	33	住宅	言及する	25
9	スタジオ	コメントする	47	いじめ	受ける	32	津波	流す	23
10	決定	出す	42	事故	避難する	30	大震災	言及する	22

るい話題もわずかにあるが、復興のめどすら立っていない状況が立ち上がる。

### 2013年 進まない復興 苛立ちと不安

前年同様に1位は「被害・受ける」。ここでも、復興の遅れの影響を伝えるものが多い。

「壊滅的な被害を受けた大川地区ではここでの暮らしをあきらめ地区を離れた人も少なくない」(NHK)

「津波で被害を受けた岩手県・大船渡の復旧工事では15人必要な人員が5人しか確保できず、建設資材も不足」(NHK)

「震災で被害を受けた自治体では、500人以上の職員が病気を理由に長期間仕事を休んだ。半数以上はうつ病など」(NHK)

「陸前高田市では3,000戸以上が被害を受けた。先月、初めて視察に訪れた安倍首相に戸羽市長は被災地と国の温度差を強調した」

(日本テレビ)

一方で、将来的な課題も浮上し始めている。

「津波被害を受けた建物が今もそのまま残っている。これら『震災遺構』は保存か解体か、多くの自治体が葛藤している」(TBS)

震災遺構は今でこそ、保存と活用に前向きな声が多いが、この時期の当事者たちにとって、遺構に対する思いは複雑なものであったようだ。

4位に「復興・進む(否定)」,つまり震災から2年経っても「復興が進まない」状況が多角的に伝えられる。

「復興特需とも言われているが、人手不足、資材不足で、建設業者はこれ以上仕事を引き受けられない(中略)多くの自治体で予算を使い切れず、復興が進まない」(テレビ朝日)

「進まない復興に痺れを切らし、多くの住民が再建を諦めて去ってしまった」(NHK)

もちろん、復興への努力は各所で続けられ、

家や仕事を再建する話題もみられるが、全体として、被災地の苛立ち、不安がより深まった印象を与える。

#### 2014年 首相の「実感」と現実

震災から3年の節目も、1位は「被害・受ける」であった。

だがこの年、「復興・実感する」が6位に入った。前年に比べ復興は大きな進展を遂げたかと思いきや、実のところは、3月10日に安倍首相が記者会見で「被災地の皆さんが復興を実感できる1年にしていく決意」を語った様子がNHK・民放すべてで複数回報道された結果である。また、「原発から20 km圏内では初めて避難指示が解除される田村市都路地区を訪問し、住民の声に耳を傾けた安倍首相は『復興が前に進み始めたと実感した』と述べた」（テレビ朝日）などがある。

しかし、この年の報道では、1位「被害・受ける」はもとより、5位「住宅・暮らす」ではいまだ「被災3県だけで9万6,842人が仮設住宅で暮らしている」（TBS）や、「仮設住宅住民は『早く自分のすみかに住みたい』とコメント。宮城県内では約8万人以上の人がいまでも仮設住宅に暮らしている」（日本テレビ）などが目立つ。また、7位「時間・かかる」でも「町の再建に時間がかかる中で他の自治体に移り住む人が相次いでいる」（NHK）など、復興の遅れによる人口減少と地域社会の衰退を危惧する声が高く、実感できていない様子である。

#### 2015年 「今後の備え」と「復興格差」

依然、1位は「被害・受ける」。

第3位「未来・つなぐ」、4位「キオク・つなぐ」は、9～13日放送の日本テレビの特番タイトル「未来へつなぐ、キオク」が反映した結果

だ。内容は、被災地の現状を伝える一方で、「り災証明書」「被災ローン減免制度」についての解説や、東京都の高層マンションでの避難訓練、地震予知研究の最前線など、「今後の災害に備えた情報」にも力を入れている。

こうした「今後の備え」をテーマとしたものはほかでも目立ってきている。5位「人・いる」では、水に浮く津波避難用シェルターの開発についてのレポートの中で、「波のこないところに逃げるのが一番良いが、体力的に、あるいは障害があって間に合わない人がいるのも事実なので、そういう方々に役立てばと強く思う」（テレビ東京）という開発者の言葉を紹介したものがあつた。

3.11 週間の報道は、被災地以外の視聴者に向けて、いつ起こるかもわからない大災害への備えを呼びかける色合いが濃くなってきた。

なお、この「人・いる」では、別の側面も映し出している。

「震災直後は張り詰めた気持ちで生活してきた。だが最近になり気持ちがとても沈む。他人に話してもどうにもならず、相談したこともない。自分より大変な人もいる、と思いつ込むようにしている」（NHK）

そして、7位に「復興・進む」が入った。

「常磐自動車道は全面開通し復興も進んでいる」（テレビ朝日）

「（塩釜仲卸市場）復興が進むにつれてようやくここにきて市場に魚が並ぶようになった」（テレビ朝日）

「復興が進んだ後（中略）桜並木ができる計画」（日本テレビ）

被災した各地で復興が形としてみえる、ないし期待が高まる表現が前年に比べはっきりと増加している。だが一方で、復興は一様ではないことも浮き彫りとなる。以下の表現が象徴的で

ある。

「復興が進んでいるところと進んでいないところ、『復興格差』が生まれているのが現状」(テレビ朝日)

街の中心部の商業施設などの整備は進む一方、住宅地の整備はなかなか進まず、人口流出が深刻化している。このころ、自宅に戻れない避難者などの数はいまだ全国で約22万9,000人。このうち半数以上が福島県の人々である。

ハード面での復興が進む一方で、格差が生じていることが見て取れるようになってきた。

### 2016年 問われる原発再稼働

1位はまたも「被害・受ける」である。この係り受けは、2012年以降ずっと1位で被害の模様とその後の影響を伝えていたが、このころからは、枕詞、慣用句として使用されているのも特徴的だ。

「津波で大きな被害を受けた大船渡市」にスマートフォンで震災時の動画を見て、今の街並みと比較ができる「復興伝承杭・みらいんや」が作られた話題(NHK)や、「大きな被害を受けた山田町」で、被災当時小学6年生で、このとき17歳になった子どもたちが将来の夢を語るエピソード(テレビ朝日)など、宮城・岩手の津波による被災地では、「かつて被害を受けたが、今は将来を見据えている」人々の姿がより鮮明になっている。

その中で、福島では安倍首相と高木復興相が「甚大な被害を受けた沿岸部の浜通り地域を中心に視察。東北最大規模の復興牧場『フェリスラテ』(福島市)では(中略)首相は『皆さんの成功が東北の未来につながる』と激励している(TBS)。その一方、南相馬市の桜井市長は、討論番組に出演し、「原発事故が起きて一番被害を受けたのは南相馬市。野田

前首相も安倍首相も、福島の復興なくして日本の再生はないといった。復興は全く出来ないのに原発再開だけやる」(テレビ朝日)と訴えている。

前述のように、この年は3～4位、6～7位、10位がいずれも「高浜原発停止の仮処分決定」の話題で、大きなウエイトを占めている。原発再稼働への動きが加速し、福島以外の原発関連の動向に注目が集まっている。

こうした中、8位に「指示・解除する」。福島では、南相馬市小高地区や葛尾村などで避難指示解除の見込みが立ち、避難住民にとって帰還するか否かの選択が注目された。前年に避難指示が解除され檜葉町のレポートでは、「避難指示が解除されてから半年(中略)幹線沿いの飲食店はにぎわっているように見えるが、今は9割くらいが作業員」(NHK)という状況だ。

なお、除染廃棄物の中間貯蔵施設の用地が確保できたのはわずか1%(日本テレビ)と報じられている。3.11週間の被災地に関する報道は、問題山積の福島へ集中し始めた。

### 2017年 「指示・解除する」と「いじめ」

飯舘村の大半、川俣町、浪江町の一部、富岡町の大半で4月から避難指示が解除されることとなり、1位は「指示・解除する」。

だが、「福島県飯舘村の大部分で避難指示が解除される。(中略)廃棄物が詰められた袋は村に230万袋」(NHK)の状態であり、廃棄した酪農家は「避難指示解除の日を迎える。(中略)飯舘村で酪農を再開する人はいないと思う。線量が除染によって下がったのは限られている場所」(テレビ朝日)と語っている。「すでに避難指示が解除された5市町村(田村市、川内村、檜葉町、葛尾村、南相馬市)



での帰還者はわずか12%」(テレビ朝日)である。

9位「いじめ・受ける」は前述の通り、福島から避難した子どもがいじめを受けていた問題にフォーカスしたものである。「NHKが行った『原発避難いじめ』アンケートの内訳は、『直接的な悪口や誹謗中傷』32件、『身体的な暴力』13件、『金品をたかられる』5件、『命の危険が及ぶ重大事態』2件」(NHK)と、いじめがあちこちで発生していることが明らかにされた。

一方、慣用句的に用いられる傾向のある「被害・受ける」(3位)はどうか。「津波で壊滅的な被害を受けた宮城・気仙沼市。(中略)公的機関の借り入れは最長で5年間返済が猶予されるが、多くの企業が震災の翌年以降から再建したため、今年から返済が始まる」(NHK)という、被災地での借金の問題が持ち上がっている。また、「岩手医科大学は津波で大きな被害を受けた県内4市町で1万人規模の健康調査。(中略)大槌町の仮設入居者で糖尿病の治療を受けている人の割合は住宅が被災しなかった人に比べて68%も高い」(NHK)など、二次的被害を伝える場合に用いられるケースが目立っている。

復興は確かに進んでいる宮城・岩手だが、経済の立ち直り、地域コミュニティの再生と心のケアなど、次なる課題が浮上している。

なお、4位「危機・見過ごす」、5位「深層・見過ごす」は、原発事故を検証したNHKスペシャル「メルトダウン6 原子炉冷却12日間の深層～見過ごされた危機～」(本放送12日・再放送14日)が反映されたものである。

#### 2018年 揺れる福島，前を向く岩手・宮城

2年連続で1位の「指示・解除する」。この4

月から富岡町の大部分で避難指示が解除されることになった。スーパーやホテルがオープンし、帰還促進に力を入れているが、思うようには進まない。

「富岡町では、福島第一原発事故による避難指示が町の一部を除いて解除。(中略)帰還する、帰還しない、考え中の3つの選択肢。町としては『町民の選択を尊重します』。帰還しない人からは『避難先で生活基盤ができた』との声。考え中の人からは『医療環境が不安』『原発の安全性が不安』」(NHK)

3位の「被害・受ける」では、「大きな被害を受けた岩手県沿岸の水産業。(中略)震災から立ち上がった力強さを商品で見せていきたい」(NHK)という、海外に販路を求める岩手県の水産加工会社を取り上げている。

また、「甚大な被害を受けた町の姿を後世に伝えていくため(中略)現在は『震災遺構』として宮古市が管理する田老町のたろう観光ホテル」(日本テレビ)など、未来志向型の伝え方が一層目立つようになった。「震災ツーリズム」や、新たな町おこしイベントなども増えている。震災の経験を、今後の地域発展にどうつなげられるかに注目している。

慣用句的に使われる「被害・受ける」を含む項目をみると、特に岩手・宮城においては、課題はあるものの、復興への歩み・試みが伝えられる傾向が強まっている。だが、宮城の中でも、現在進行形の「被害」はある。福島第一原発と同様に、「地震の揺れで外部電源5系統のうち4系統が損傷するなどの被害を受け」、原子炉が冷温停止した女川原発の周辺地域の様子が報道された。そこでは、「居酒屋カフェ。客の半数は復興事業の関係者だと言う。女川町の復興事業は来年度にはほぼ終わる見込み。オーナーは『震災前よりひどくなるんじゃない

いか。原発の人たちが戻ってきてくれないと」と話した。期待をかけるのは、女川原発の再稼働(TBS)という声が紹介された。

なお、この4か月後、東北電力は、女川原発2号機の再稼働に向けたすべての審査を2019年1月には終える方針を表明した。

## II-4 キーワード「復興」「原発」 係り受けの推移を比較する

岩手・宮城での「復興」と、「原発」を抱える福島の差が垣間見えた。この差について、角度を変えて分析を試みたい。

前述のように、このメタデータは、2011年の震災発生直後から、「震災」「原発」「復興」「放射能」「エネルギー」の5つをキーワードに指定し、これらのうち1つでも言及されているニュース・番組をすべて収集した。

5キーワードの年ごとの出現数、量的変化を示したのが図9である。

出現数では、「震災」が7年間を通して最も多い。表2(76-77p)の名詞の出現数ランキングでも「東日本」と「大震災」はいずれの年も3位以内にあることから、ほとんどの番組が「東日本大震災」の言葉を用いるため、当然の結果といえる。

また、「放射能」「エネルギー」についてだが、すでに述べたように、あまりにも母数が少なく、分析の対象となり得ない。原発安全神話の崩壊の衝撃と、クリーンな電源確保への議論は、

間違いなく震災発生直後の強い関心事だったはずなのだが、我々の予測はもろくも外れた。なぜエネルギーの議論が活発化しなかったのか、今後の研究課題である。

以上のような事情もあり、ここでは「復興」と「原発」の2つを比較、検討する。年ごとにどの程度出現し、どのような文脈で語られたか、特に「復興」と「原発」の量的・質的な推移について掘り下げていく。

改めて図9をみると、この2つのキーワードの出現頻度は、各年とも拮抗している。2012年は「原発」がわずかに多く、2013年は同数、2014年、2015年は「復興」が、2016年、2017年は「原発」が多い。2018年に再び「復興」がわずかに多くなっている。

拮抗する2つのキーワードは、それぞれどのような文脈で語られ、変化したのか。ここでは「動詞」の出現頻度に注目して読み解いていこう。「復興」での動詞の頻度の高い上位50位までが表6(86-87p)、「原発」のそれが表7(88-89p)である。

### ●「復興」…「願う」から「進む」へ

#### ①「行われる」の変化

「復興」での動詞の出現頻度の上位の常連に「行われる」がある。2012年、2013年は2位。2014年5位、2015年3位、2016年9位、2017年3位、2018年6位。すべて10位以内に入っている。

追悼式や慰霊祭が各地で行われることがその要因であるが、そのほかに何が行われたのか、追ってみよう。2012年での2位に貢献しているのは、コンサートやイベントが「行われた」ことである。ジャニーズ事務所の震災復興支援プロジェクト「Marching J」やAKB48グループが全国4か所で開催した復興支援特別公演がある。西田敏行は故郷・福島県郡山市での復興イベ

図9 5キーワードの出現数

	2012年	2013	2014	2015	2016	2017	2018
震災	2,190	1,510	1,662	1,467	1,468	831	820
復興	798	591	789	663	606	319	353
原発	868	591	601	452	649	499	277
エネルギー	83	77	50	59	42	29	23
放射能	91	54	50	30	78	40	11

ント「福魂祭」に参加し、歌を披露。石巻市では復興ウォーキングが行われた。ほとんどが、芸能人のコンサートや、地元イベントだ。

震災から5年の2016年には何が「行われ」たか。大勢のアーティストによるチャリティーコンサートなども行われている一方、茨城県鹿嶋市では「防波堤に使うケーソンの制作が行われ」(NHK)、宮城県名取市では「復興が進む地域の現状を海外からの留学生に知ってもらおうというツアーが行われ」た(NHK)。岩手県大槌町では「高台移転事業の宅地抽選会が行われ」ている(テレビ朝日)。復興に向けた実質的な様子の比重が高まっている。

## ②「進む」と「進む(否定)」の比較

2013年までは「進む(否定)」が5位、4位と上位に位置する。上述のように、復興は「進んでいない」という文脈で使われた。その後この動詞は年々順位を下げ、2016年以降は圏外となった。一方、「進む」は2015年以降、1位、2位にあり、2018年も5位。ただし、2018年には、「復興は進んでいるが時の流れと共に幕を下ろす取り組みがある」「復興が進む中、あの日を忘れないためのさまざまな行事が行われ」(いずれもフジテレビ)のように、徐々に「復興・進む」の表現も慣用句化しつつあることがうかがえる。

## ③「願う」の下降と再浮上

「願う」は、2012年は20位。その後、30位、35位と順位を下げ、2015年、2016年は圏外となった。上記の「進む」が上位になるのとは対照的である。当初は、復興は「願う」もの、つまり「進まない」状況にあったが、実質的な取り組みの進捗が目に見えていく様子が見えてくる。

2017年、「願う」は2年ぶりに43位で登場す

る。「男性が大切にしてきたのは『いつか村に戻ろう』と願って仲間と作ったアルバム」(NHK)は、避難指示解除で帰還の準備をする飯舘村の人々のレポートである。

仙台市の管弦楽団のメンバーが、前年(2016年)4月に大地震に襲われた熊本市を訪れ、「東日本大震災で被災した東北と熊本地震で被災した熊本のお互いの復興を願って」(TBS)、コンサートを開催している。宮城県が、このころには、他県の復興のために「願う」動きも出始めている。

岩手県の達増知事は、産業の再生についての討論番組で、次のように発言している。「新しい商品開発、新しい分野の産業の発展を作っていかなければならない。オールジャパンの力を借りてお願いしたい」「まちづくりが本格化して住宅移転も最終局面になってくると、国との調整を要する所が出てくるのでそこをお願いしたい」(NHK)。

岩手と宮城の「願う」は、2012年の復興状況からは明らかに進捗しているものの、次なる課題も浮上していることを示している。

## ●「原発」…地域・テーマの幅広さ

### ①「行われる」の復興との差異

「復興」と同じく、原発でも「行われる」は7年通じて上位である。ここでの「行われる」の推移をみると、2012年は、

「避難区域は、今月末にも見直しが行われ、放射線量が比較的低い地域は住民の早期帰宅を目指す」(NHK)

「道路などのインフラ設備で先行して除染作業が行われている」(NHK)

といった、福島特有の問題に対して言及されている。

2015年はドイツのメルケル首相が来日した報

表6 「復興」動詞の出現頻度

復興・動詞 全体(4,119件)			2012年(798件)			2013(591)			2014(789)			2015(663)		
順位	単語	件数	順位	単語	件数	単語	件数	単語	件数	単語	件数	単語	件数	
1	行われる	494	1	行う	95	紹介する	91	話す	114	進む	86			
2	行う	470	2	行われる	93	行われる	79	する	108	話す	85			
3	言及する	456	3	紹介する	89	行う	60	述べる	103	行われる	84			
4	紹介する	420	4	受ける	67	進む(否定)	59	行う	101	行う	81			
5	受ける	399	5	進む(否定)	60	受ける	52	行われる	99	受ける	71			
6	進む	378	6	被災する	47	見る	49	コメントする	92	コメントする	67			
7	する	371	7	支援する	44	開く	46	思う	91	進める	64			
8	コメントする	347	8	向ける	42	進める	40	見る	85	作る	63			
9	作る	346	9	する	42	取材する	39	語る	83	開く	58			
10	話す	344	10	作る	42	作る	35	進める	80	する	56			
11	見る	336	11	考える	41	被災する	33	紹介する	74	述べる	56			
12	進める	330	12	見る	41	する	33	考える	68	向ける	55			
13	思う	305	13	開催する	40	進む	31	作る	64	紹介する	54			
14	考える	294	14	続ける	40	考える	31	使う	62	思う	53			
15	述べる	273	15	取材する	39	使う	30	受ける	61	ある	53			
16	開く	271	16	参加する	39	ある	29	進む	57	出る	51			
17	取材する	260	17	開く	38	される	28	開く	57	考える	50			
18	出る	258	18	求める	35	避難する	27	進む(否定)	51	使う	48			
19	使う	255	19	寄付する	35	伝える	27	実感する	51	見る	48			
20	ある	253	20	願う	34	訪れる	27	戻る	50	示す	47			
21	被災する	252	21	集まる	34	見つめる	27	向ける	48	伝える	47			
22	向ける	245	22	出る	34	開く	26	ある	48	言及する	45			
23	語る	231	23	示す	33	示す	25	いる	47	語る	44			
24	進む(否定)	229	24	進める	33	向ける	25	示す	47	訪れる	44			
25	戻る	218	25	迎える	33	暮らす	24	被災する	43	被災する	43			
26	続ける	217	26	進む	31	求める	24	入れる	43	いる	41			
27	いる	216	27	使う	31	つく	23	続ける	42	取材する	39			
28	訪れる	210	28	伝える	28	言及する	23	迎える	42	策定する	38			
29	迎える	209	29	込める	28	目指す	23	暮らす	41	目指す	37			
30	示す	206	30	訪れる	27	願う	22	暮らす	40	進む(否定)	36			
31	続く	206	31	捧げる	26	残る	22	住む	39	取り組む	36			
32	暮らす	198	32	始まる	25	戻る	22	出る	39	続く	36			
33	伝える	197	33	決める	25	出る	22	開く	38	亡くなる	36			
34	目指す	188	34	送る	25	続ける	22	取材する	38	感じる	36			
35	始まる	177	35	いる	24	忘れる(否定)	21	願う	37	暮らす	36			
36	避難する	175	36	述べる	24	続く	21	再開する	37	始まる	35			
37	支援する	173	37	ある	23	経つ	21	参加する	37	決定する	33			
38	再開する	171	38	暮らす	22	超える	21	言う	36	やる	32			
39	参加する	171	39	再開する	22	訪問する	20	避難する	34	完成する	32			
40	聞く	168	40	支える	22	再開する	20	かかる	34	終わる	32			
41	求める	158	41	発表する	22	参加する	20	解除する	32	避難する	31			
42	願う	153	42	思う	20	住む	20	目指す	32	残る	30			
43	やる	152	43	活動する	20	取り組む	20	完成する	32	求める	29			
44	開催する	149	44	出席する	20	集まる	20	できる	31	参加する	29			
45	集まる	149	45	避難する	19	迎える	20	始まる	31	聞く	29			
46	取り組む	148	46	流す	19	出席する	19	始める	31	迎える	29			
47	経つ	147	47	起きる	19	始まる	19	再開する	31	再開する	27			
48	住む	147	48	語る	19	加速する	19	訪れる	30	失う	27			
49	される	144	49	失う	18	捧げる	19	求める	30	流す	27			
50	完成する	142	50	ささげる	18	失う	18	超える	30	戻る	26			

2016 (606)		2017 (319)		2018 (353)	
単語	件数	単語	件数	単語	件数
言及する	135	言及する	119	言及する	106
<b>進む</b>	90	<b>進む</b>	42	コメントする	58
作る	78	<b>行われる</b>	38	話す	50
コメントする	77	作る	37	受ける	42
する	74	話す	37	<b>進む</b>	41
受ける	71	解除する	35	<b>行われる</b>	40
行う	69	紹介する	35	戻る	38
思う	66	受ける	35	見る	35
<b>行われる</b>	61	行う	34	思う	34
見る	61	進める	33	取材する	34
続く	56	コメントする	33	出る	32
進める	56	出る	32	いる	32
話す	54	ある	31	する	32
考える	54	迎える	27	考える	32
紹介する	49	戻る	26	解除する	31
取材する	49	する	26	被災する	30
出る	48	述べる	25	行う	30
目指す	45	思う	24	紹介する	28
向ける	44	避難する	23	伝える	27
続ける	42	被災する	22	使う	27
ある	42	続ける	22	作る	27
いる	42	訪れる	22	ある	27
戻る	41	取材する	22	入る	27
使う	41	始まる	21	進める	24
迎える	41	再開する	20	完成する	24
訪れる	40	かける	19	聞く	24
暮らす	39	入る	18	目指す	24
起きる	39	暮らす	18	語る	23
述べる	37	続く	18	続ける	23
聞く	36	考える	18	やる	22
やる	35	見る	17	行く	21
伝える	35	開催する	16	聞く	21
被災する	34	使う	16	再開する	20
減る	32	描く	16	訪れる	20
経つ	32	できる	16	始まる	20
支える	31	いる	15	支援する	19
取り組む	31	オープンする	15	される	19
来る	30	開く	15	続く	19
聞く	30	語る	15	超える	19
語る	30	除く	14	向ける	19
つながる	30	亡くなる	14	再建する	19
確保する	30	住む	14	取り組む	18
参加する	30	<b>願う</b>	13	暮らす	18
避難する	29	訪ねる	13	かける	18
失う	29	再建する	13	述べる	18
される	29	増える	13	できる	17
超える	28	される	13	迎える	17
遅れる	27	帰る	13	住む	17
かかる	27	やる	12	開催する	16
示す	27	言う	12	持つ	16

道の中で登場する。

「首脳会談に先立ち行われた講演でメルケル首相は、ドイツの“脱原発”のきっかけは福島第一原発事故と語った」(テレビ朝日)

直近の2018年は、「溶け落ちた核燃料を取り出すため、ロボットの開発が行われている」(テレビ朝日)。

さらに前年に避難指示が一部解除になった浪江町では、「福島県警の一斉捜索集結式が行われ、その後、250人態勢で沿岸部の捜索を行った」(TBS)と、なおも続く196名の行方不明者の捜索が伝えられる。ここでも、「復興」と比べ、原発の問題という防災当初の課題が現在進行形で続いていることが浮き彫りになる。

## ② 「避難する」の多さと「解除する」の上昇

「原発」で最も多く出現する動詞は「避難する」である。2012～2015年は1位ないし2位。2017年も2位。避難命令のもと、自宅から離れた場所に避難した被災者に触れたものだ。

一方で、2016年から順位を上げているのが「解除する」。多くの地区で避難指示の解除が始まり、帰還が促されるに伴い、2016年に28位で登場する。同年、「避難する」は12位に順位を下げる。「解除する」は2017年3位、2018年2位と、福島を語る最もホットなテーマとなるが、それでも「避難する」の順位は高い位置を保っている。前述の通り帰還への道は険しく、依然、避難生活を続ける人々が多く、報道もその状況に着目していることがうかがい知れる。2017年の42位「戻る(否定)」も、そのことを裏づけている。

## ③ 福島独特の「進む」

「復興」では「進む(否定)」の減少と反比例するように「進む」が上昇したが、「原発」での

表7 「原発」動詞の出現頻度

原発・動詞 全体(3,937件)			2012年(798件)			2013(591)			2014(789)			2015(663)		
順位	単語	件数	順位	単語	件数	単語	件数	単語	件数	単語	件数	単語	件数	
1	避難する	532	1	紹介する	112	避難する	91	避難する	93	出る	75	出る	75	
2	言及する	467	2	避難する	106	行う	77	話す	82	避難する	60	避難する	60	
3	行う	423	3	受ける	84	行われる	69	述べる	71	ある	57	ある	57	
4	受ける	402	4	行う	75	紹介する	67	行う	68	進める	55	進める	55	
5	行われる	399	5	行われる	70	見る	61	進める	68	行われる	51	行われる	51	
6	ある	399	6	示す	61	続く	56	行われる	65	述べる	51	述べる	51	
7	紹介する	380	7	する	61	ある	50	見る	63	コメントする	50	コメントする	50	
8	出る	364	8	ある	59	受ける	47	ある	60	行う	47	行う	47	
9	見る	340	9	見る	59	取材する	42	する	59	進む	46	進む	46	
10	話す	322	10	作る	53	戻る	38	紹介する	58	始まる	46	始まる	46	
11	続く	318	11	出る	52	超える	36	出る	55	受ける	45	受ける	45	
12	進める	316	12	戻る	46	求める	35	コメントする	54	続く	41	続く	41	
13	戻る	314	13	求める	45	向ける	35	示す	52	話す	40	話す	40	
14	する	304	14	取材する	45	開く	33	思う	50	向ける	39	向ける	39	
15	コメントする	297	15	続ける	43	する	32	続く	50	暮らす	38	暮らす	38	
16	考える	273	16	起きる	42	進める	31	開く	49	紹介する	37	紹介する	37	
17	取材する	261	17	いる	42	伝える	31	戻る	48	思う	34	思う	34	
18	述べる	260	18	発表する	41	聞く	31	考える	47	考える	34	考える	34	
19	いる	258	19	離れる	40	言及する	30	いる	46	言及する	34	言及する	34	
20	示す	258	20	考える	38	出る	30	開く	46	戻る	33	戻る	33	
21	続ける	252	21	開く	37	進む(否定)	29	決める	44	する	33	する	33	
22	向ける	233	22	発生する	36	入る	29	進む	41	続ける	32	続ける	32	
23	求める	229	23	暮らす	35	いる	29	起きる	41	示す	31	示す	31	
24	解除する	228	24	使う	35	考える	29	取材する	41	見る	31	見る	31	
25	思う	228	25	続く	35	離れる	29	受ける	39	取材する	30	取材する	30	
26	進む	227	26	超える	35	進む	28	語る	38	保管する	29	保管する	29	
27	出す	224	27	進める	33	示す	27	続ける	37	増える	29	増える	29	
28	起きる	221	28	つく	32	される	27	暮らす	37	進む(否定)	27	進む(否定)	27	
29	作る	209	29	言及する	31	始まる	27	確認する	37	作る	25	作る	25	
30	始まる	209	30	行く	31	指定する	27	作る	36	目指す	25	目指す	25	
31	開く	199	31	向ける	30	住む	26	向ける	36	取り組む	25	取り組む	25	
32	聞く	198	32	確認する	29	暮らす	25	離れる	36	帰る	24	帰る	24	
33	暮らす	197	33	設置する	29	作る	24	住む	34	立つ(否定)	24	立つ(否定)	24	
34	超える	195	34	される	29	使う	24	発生する	33	伝える	23	伝える	23	
35	言う	186	35	聞く	28	かかる	23	観測する	32	経つ	23	経つ	23	
36	入る	179	36	公表する	27	続ける	23	超える	31	残る	22	残る	22	
37	発生する	178	37	指定する	27	参加する	22	言う	30	いる	21	いる	21	
38	目指す	170	38	出す	26	残す	22	増える	30	決める	21	決める	21	
39	される	169	39	再開する	25	送る	21	目指す	29	訪れる	21	訪れる	21	
40	決める	167	40	始まる	25	忘れる(否定)	21	訪れる	27	決定する	21	決定する	21	
41	離れる	165	41	伝える	24	挑む	20	入る	27	始める	21	始める	21	
42	使う	160	42	残る	23	訴える	20	送る	26	住む	21	住む	21	
43	残る	154	43	公開する	23	発生する	20	帰る	25	感じる	21	感じる	21	
44	住む	152	44	批判する	22	起きる	20	求める	25	みる	20	みる	20	
45	再開する	151	45	訪れる	22	帰る	19	始まる	25	言う	20	言う	20	
46	伝える	150	46	住む	22	つく	19	される	25	超える	20	超える	20	
47	確認する	146	47	生きる	22	実施する	19	指定する	25	求める	20	求める	20	
48	迎える	141	48	分かる	22	知る	19	進む(否定)	23	難航する	20	難航する	20	
49	訪れる	139	49	経つ	22	残る	18	かかる	23	聞く	19	聞く	19	
50	帰る	138	50	進む(否定)	21	出す	18	相次ぐ	22	めぐる	19	めぐる	19	

2016 (606)		2017 (319)		2018 (353)	
単語	件数	単語	件数	単語	件数
言及する	124	言及する	147	言及する	92
受ける	90	避難する	85	解除する	53
行う	87	解除する	78	戻る	48
コメントする	86	話す	65	話す	47
出す	81	受ける	64	行われる	40
ある	79	ある	63	受ける	33
話す	76	コメントする	51	見る	32
求める	75	続く	51	続ける	32
出る	75	出る	51	ある	31
停止する	72	戻る	47	避難する	28
進める	72	行う	45	コメントする	28
避難する	69	行われる	43	取材する	28
いる	69	する	43	する	28
命じる	68	見る	42	再開する	27
起きる	63	出す	42	進める	27
考える	62	述べる	41	入る	27
行われる	61	取材する	40	続く	27
思う	60	考える	39	出る	26
続く	58	見過ごす	39	目指す	26
戻る	54	進む	37	紹介する	25
残る	53	続ける	37	考える	24
紹介する	52	かける	35	行う	24
見る	52	向ける	32	始まる	23
述べる	50	始まる	32	聞く	23
言う	49	示す	31	いる	22
する	48	言う	31	述べる	22
続ける	48	延期する	30	出す	21
解除する	47	進める	30	進む	19
再稼働する	46	思う	30	思う	19
超える	45	紹介する	29	聞く	19
進む	44	いる	29	言う	19
決定する	44	目指す	27	使う	19
示す	44	入る	27	向ける	19
向ける	42	めぐる	26	通う	18
目指す	37	決める	26	帰る	18
取材する	35	再開する	25	作る	18
発生する	33	発表する	24	される	18
される	33	発生する	24	残す	17
伝える	32	作る	23	とどまる	17
迎える	32	語る	23	行く	16
決める	31	開く	23	発生する	16
始まる	31	戻る(否定)	22	取り出す	15
申し立てる	31	除く	22	暮らす	15
聞く	31	される	22	起きる	15
作る	30	起きる	22	伝える	14
入る	30	始める	22	始める	14
訪れる	29	確認する	21	かける	14
離れる	29	広がる	21	超える	14
知る	29	暮らす	21	できる	14
行く	29	わかる	19	やる	14

「進む」はどうであろうか。数量的には低水準ながら、「復興」とは異なる傾向を示している。「進む」が、最も順位が高い2015年(9位)に向けて上昇し、以降は順位を落としていることが注目される。

では、その内容はどうか。2013年では、

「(NHK世論調査で)復興が進んでいるかは、進んでいる1%、ある程度進んでいる19%、あまり進んでいない53%、進んでいない23%」(NHK)

「復興はどこまで進んでいるのか、放射性物質はどうなったのか」(テレビ朝日)

といったように、世論調査での回答や疑問形で用いられることが多く、実際にはあまり「進んでいる」わけではないことがわかる。

最も順位の高い2015年では、前出のメルケル首相の、

「私たちは再生可能エネルギーへの転換を進めている。日本もこの道を進むべきだ」(テレビ朝日)

などの発言で登場するほか、「(双葉町と大熊町で)中間貯蔵施設を建設する計画が進んでいる」(テレビ東京)、「浪江町では去年の秋、仮置き場が完成し(中略)打ち上げられた船や押し流された車などの撤去が、震災から4年たってようやく進められている」(TBS)などがある。

2018年でも、

「(アンケート)住民帰還が進んでいるか『思う』1%」(NHK)

「Jヴィレッジは東京五輪の合宿地として使えるように整備が進み、今年7月28日に再オープン」(日本テレビ)

といったように、避難者の帰還に向けた努力によって改善はみられるものの、復興への道半ばである様子が伝えられている。

#### ④ 「福島以外」への関心の高さ

「原発」の言及数を押し上げている要因として注目すべきは、「原発」は福島だけではなく、この事故後に操業停止した国内各地の原発の再稼働に向けた動向などに報道の目が向けられていることである。

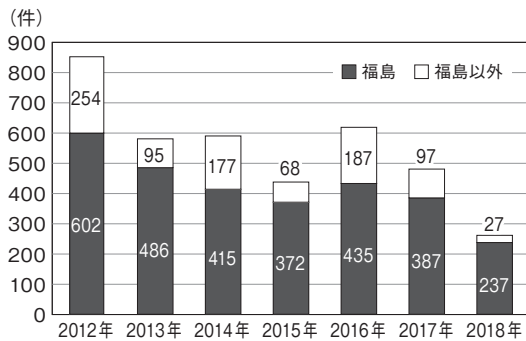
図10は「原発」が出現する内訳で、言及する内容を、「福島」と「福島以外」のものに分けて示したものである。毎年「復興」と同程度の出現頻度を保つ「原発」だが、年によっては「福

島以外」の言及が目立っている。

図10にまとめたように、例えば2012年は、チェルノブイリでの原発事故とその後の被ばくの影響を伝え、2014年は、この時期に愛媛県で地震が発生したため、伊方原発に問題が起きていないかが報じられた。また前述のように、2016年は、高浜原発に対する仮処分命令があり、それに関連する係り受けが上位を占めている。福島への言及が2012年から2015年まで漸減し、いったん2016年で上昇するが再び減少傾向にある中、「福島以外」への関心が維持され、「原発」全体への言及数が高い水準を保つ結果となっている。

市町村別の分析で福島の多数の自治体が年ごとに入れ替わり上位に入ったのと同様に、原発を取り巻く事象は、地域を問わず、課題が多様に存在し、テレビは一定の注目を示していることがわかる。

図10 「原発」出現の内訳(番組予告除く)



#### 「福島以外」主な内容

- 2012 柏崎刈羽原発のストレステスト記載に不備  
チェルノブイリ事故後の影響 大飯原発再稼働  
関連動向 茨城で地震、原発は無事 東京都民の被ばくの影響 外国産米の購入が進む  
国内外で反原発デモ
- 2013 メタンハイドレートへの注目 国内外の反原発  
デモ 原発へのサイバー攻撃への備え
- 2014 首相が再稼働を明言 愛媛で震度5強地震(伊  
方原発は無事) 川内原発、安全審査をほぼ  
クリア 世論調査「原発減らすべき」80%
- 2015 独・メルケル首相来日、原発全廃方針 小泉  
元首相が講演で脱原発訴え 美浜や玄海など  
廃炉の検討へ 国連防災世界会議が仙台で開催
- 2016 高浜原発再稼働停止の仮処分 伊方原発再稼  
働差し止めを求めて提訴 首相「再稼働方針  
に変わらない」 公明党が再エネ推進の宣言
- 2017 電力自由化でシェア争い 民進党が原発ゼロ  
基本法案提出の方針 原発建設で巨額損失の  
東芝が決算発表延期
- 2018 東海第二原発の避難対策 小泉元首相の脱原  
発論 大飯原発3号機再稼働

## II-5 第II章のまとめ

### 「復興」の岩手・宮城、「原発」の福島

ここまでの分析をおさえておく。

全体の件数が減少傾向にある中、岩手・宮城の地震と津波の被災地と、それに加えて原発事故の影響を抱える福島とでは、報道内容の推移にも明らかな違いが表れている。

震災から3年を迎える2014年までは、「復興の遅れ」による被災者への悪影響が、3県ともに、はっきりと見て取れる。

しかし、2015年以降、岩手・宮城については、徐々にではあるものの、復興を感じさせる明るい話題の割合が増える一方、福島原発事故の被災者たちのさまざまな苦境が上位に挙がる。

もちろん、岩手・宮城では2018年の報道に



においても多数の課題が伝えられている。特に、ハード面（道路、堤防など）の整備は進んでいるものの、ソフト面（収入と暮らしの安定やコミュニティづくり、心のケアなど）での復興は依然、道半ばであることが随所にみられる。それでも、さらなる復興を目指し前向きに取り組む人々と、それを応援する人々がテレビで伝えられ、「がんばろう東北」の印象が強くなっている。

福島については、出現頻度の高い単語も自治体名も、年々変化している結果から明らかのように、原発事故がもたらした幾重にも及ぶ課題が残ったままであることが確認できた。



## 3月11日の番組

前章では、3月11日を中心とする1週間の報道内容の変化をみることで、この7年間に、東日本大震災関連報道がどのような推移をたどってきたかを明らかにした。

本章では、分析対象を3月11日に絞り、どのような場所や事物（映像）が伝えられてきたのかなど、より詳細な分析を試みる。

### Ⅲ-1 3月11日の関連報道・番組

図11(92-95p)は、各年の3月11日に、各局で、東日本大震災関連の報道を含む番組がどのくらい編成されていたかを示している。網かけをしたのが、関連報道を含む番組（関連報道の長さにかかわらず、少しでも含んでいた番組には網かけがしてある）、Ⓜ印は、その中に被災地からの中継が含まれている番組である。

表をみると、年を経るにしたがって、関連報

道を含む番組が減っているように見える。これを正確に把握するため、関連報道の時間を算出してその推移をみた。

図12に示したように、2012年から2013年にかけて減少するが、2013年から2016年までの4年間はほぼ横ばいで推移している。しかし、2017年には大きく減少し、2018年はさらにそれを下回った。

局別にみると、NHKの関連報道時間はあまり変化しておらず、各年とも一定程度の時間を割いて報道してきている。民放では、テレビ東京の関連報道量が常に少なく、他の4局は、2012年こそNHKを上回る報道量を割いていた局があったものの、その後は減少傾向が続いており、特に2017年以降大きく減少している。

図12 3月11日の震災関連報道量の推移

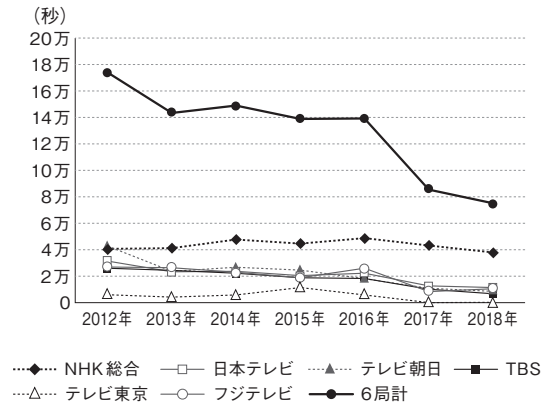


表8(96p)は、3月11日に放送された震災関連番組（震災関連の内容を含む番組）の本数の推移である。

6局全体で、2012年には83本あったものが、2013年には77本に減少、その後の3年間は、73本、72本、73本と一定数が保たれていたが、2017年、2018年は58本と大幅に減少した。番組の数でも、前述の関連報道量と同様に、2017年以降の減少傾向が顕著である。

図11 3月11日の震災関連番組編成表 [4:00~16:00]

時間	2012/3/11					2013/3/11					2014/3/11					2015/3/11		
	NHK	日テレ	テレ朝	TBS	テレ東	フジ	NHK	日テレ	テレ朝	TBS	テレ東	フジ	NHK	日テレ	テレ朝	TBS	テレ東	フジ
4:00																		
4:10																		
4:20																		
4:30																		
4:40																		
4:50			震災 池上彰				おはよう 日本		やじうま テレビ!				おはよう 日本					おはよう 日本
5:00																		
5:10																		
5:20																		
5:30																		
5:40																		
5:50																		
6:00																		
6:10																		
6:20	たべもの 一直線																	
6:30																		
6:40																		
6:50																		
7:00	おはよう 日本																	
7:10																		
7:20																		
7:30																		
7:40																		
7:50	明日へ・ 震災 1年の朝																	とくダネ!
8:00	小さな旅 福島県 相馬市	シューイ チ			サンデー モーニン グ													
8:10																		
8:20																		
8:30																		
8:40																		
8:50																		
9:00	日曜 討論																	
9:10																		
9:20																		
9:30																		
9:40																		
9:50																		
10:00	明日へ 支えあ おう	波瀬輝 笑			サンデー ジャポン													
10:10																		
10:20																		
10:30																		
10:40																		
10:50																		
11:00																		
11:10																		
11:20																		
11:30																		
11:40																		
11:50																		
12:00	NHK ニュース																	
12:10	明日へ 支えあ おう																	
12:20																		
12:30																		
12:40																		
12:50																		
13:00																		
13:10																		
13:20																		
13:30																		
13:40																		
13:50																		
14:00																		
14:10																		
14:20																		
14:30																		
14:40																		
14:50																		
15:00																		
15:10																		
15:20																		
15:30																		
15:40																		
15:50																		





2015 /3/11			2016 /3/11			2017 /3/11			2018 /3/11					時間	
TBS	テレ東	フジ	NHK	日テレ	テレ朝	TBS	テレ東	フジ	NHK	日テレ	テレ朝	TBS	テレ東	フジ	時間
大震災4年 Nスタ ⊕		FNN 報道特別 番組 「震災と感 発と日本の 覚悟」 ⊕	震災5年 news every. ⊕	スーパー Jチャンネル SP 東日本 大震災か ら5年～ 全編LIVE 「25」の いま～ ⊕	Nスタ ⊕			みんなの ニュース ⊕	東日本 大震災 6年特集 明日へ つなげよう! ⊕	天才 志村どう ぶつ園 ⊕	3.11 報道特別 番組 ともに、未 来へ ⊕				16:00
	NEWS アンサー ⊕	スーパー ニュース ⊕	ニュース 5時 ⊕												16:10
															16:20
															16:30
															16:40
															16:50
															17:00
															17:10
															17:20
															17:30
															17:40
															17:50
															18:00
															18:10
															18:20
															18:30
															18:40
															18:50
															19:00
															19:10
															19:20
															19:30
															19:40
															19:50
															20:00
															20:10
															20:20
															20:30
															20:40
															20:50
															21:00
															21:10
															21:20
															21:30
															21:40
															21:50
															22:00
															22:10
															22:20
															22:30
															22:40
															22:50
															23:00
															23:10
															23:20
															23:30
															23:40
															0:00
															0:10
															0:20
															0:30
															0:40
															0:50
															1:00
															1:10
															1:20
															1:30
															1:40
															1:50
															2:00
															2:10
															2:20
															2:30
															2:40
															2:50
															3:00
															3:10
															3:20
															3:30
															3:40
															3:50
															4:00

⊕ = 中継放送あり

表8 3月11日 震災関連項目のあった番組の数

	2012年	2013	2014	2015	2016	2017	2018	7年計
NHK総合	23	26	27	27	29	25	21	178
日本テレビ	11	11	10	9	9	8	9	67
テレビ朝日	14	8	8	8	6	10	8	62
TBS	17	12	9	11	11	8	9	77
テレビ東京	7	9	8	7	9	1	2	43
フジテレビ	11	11	11	10	9	6	9	67
6局計	83	77	73	72	73	58	58	494

表9は震災関連番組の内訳である。通常の編成枠にはない番組が特設されたり、通常の時間より拡大して放送された番組の数は、2012年には全体で20本あったが、以降は10～13本で推移している。

NHK総合では、比較的、特設・拡大番組の数が多く、特に2016年、2017年にはそれまでより多く放送している。一方、民放では、特設・拡大番組は2012年には比較的多かったが、その後は各局とも、毎年1、2番組で推移している<sup>8)</sup>。

表9 3月11日震災関連番組数の内訳

	定時番組	拡大番組	特設番組	計
2012年	63	6	14	83
2013年	67	4	6	77
2014年	62	3	8	73
2015年	61	6	5	72
2016年	61	3	9	73
2017年	48	1	9	58
2018年	45	3	10	58

### Ⅲ-2 中継を含む番組

3月11日の震災関連番組では、被災地からの中継を含む番組が多くみられる。被災地からの中継は、その場所への注目や寄り添う気持ちを示す効果を、ある程度意図したものと考えら

表10 3月11日に中継された市町村（全局計）

全体			2012年		2013		2014		2015	
順位	市町村	件数	市町村	件数	市町村	件数	市町村	件数	市町村	件数
1	岩手県陸前高田市	52	気仙沼市	10	気仙沼市	12	浪江町	9	陸前高田市	9
2	宮城県石巻市	48	陸前高田市	10	大槌町	12	山田町	7	石巻市	8
3	福島県浪江町	43	南三陸町	8	石巻市	8	石巻市	7	浪江町	8
4	宮城県南三陸町	42	石巻市	7	浪江町	8	気仙沼市	5	女川町	6
5	宮城県気仙沼市	36	仙台市	6	千代田区	6	宮古市	5	千代田区	5
6	東京都千代田区	35	千代田区	6	陸前高田市	6	千代田区	5	富岡町	5
7	宮城県名取市	26	名取市	5	南相馬市	5	名取市	5	檜葉町	4
8	岩手県宮古市	22	会津若松市	3	南三陸町	4	檜葉町	4	南三陸町	4
9	福島県大槌町	19	大熊町	3	会津若松市	3	南三陸町	4	福島第一原発	3
10	福島県檜葉町	18	南相馬市	3	福島市	3	いわき市	3	野田村	3
11	福島第一原発	16	福島第一原発	3			田野畑村	3		
12	宮城県仙台市	15	浪江町	3			陸前高田市	3		
13	福島県南相馬市	15								
14	宮城県女川町	14								
15	福島県富岡町	14								

れる。各番組は、中継地点として、広域にわたる被災地のどこを選び、どのように伝えたのだろうか。

### Ⅲ-2-1 中継を含む番組の数と中継地点

中継を含む番組(図11中の㊦印)は、2012年(19本)より2013年以降のほうが多い(2013年30本、2014年26本、2015年24本)。特に2016年には、震災関連番組の半数近くにあたる30本で中継が含まれていた。しかし、2017年には20本、2018年には16本と年を追って減少している。

表10は、それぞれの年に中継で伝えられた市町村のランキングである(番組ごとにカウント)。全体を通じて、最も多く中継されていたのは岩手県陸前高田市、次いで宮城県石巻市、福島県浪江町、宮城県南三陸町、宮城県気仙沼市と続く。

前章の3.11週間の分析で言及率が高かったのが、1位宮城県石巻市、2位岩手県陸前高田市、3位宮城県仙台市、4位宮城県気仙沼市、

5位宮城県南三陸町、6位福島県浪江町であった。仙台市を除けば、上位5市町は同じである。

震災3年目と5年目に行った震災関連ドキュメンタリー番組の調査で、取材地として上位に挙がっていたのは、宮城県石巻市、宮城県気仙沼市、岩手県陸前高田市、岩手県釜石市、福島県南相馬市などであった。岩手県陸前高田市、宮城県石巻市、宮城県気仙沼市は、ドキュメンタリー番組の取材地としても、中継地点としても、注目を集める地域であり続けているといえるだろう。また、福島県浪江町、宮城県南三陸町は、ドキュメンタリー番組でもある程度は取り上げられてきているが、中継地点としての登場頻度のほうが高い地域といえる。これは、次項で詳しく述べるが、この地域に東日本大震災を象徴する事物が存在することと関わっていると考えられる。

### Ⅲ-2-2 中継地点で映し出されていた事物

中継されることの多かった被災地では、どのような場所のどのような事物が映し出されていたのだろうか。以下に、上位10地点で映し出されていた地域、事物を挙げる。

1位 岩手県陸前高田市:

「奇跡の一本松」

「ベルトコンベアー(希望の架け橋)」

【写真1】

2位 宮城県石巻市:

「大川小学校」

【写真2】

「日ひ和りやま山公園」(鹿島御み兎こ神社)

3位 福島県浪江町:

「請うけ戸地区」(請戸漁港、請戸小学校)  
そこから見える「福島第一原発排気塔」

【写真3】

4位 宮城県南三陸町:

「志津川地区」(防災対策庁舎)

2016		2017		2018	
市町村	件数	市町村	件数	市町村	件数
陸前高田市	13	南三陸町	10	石巻市	7
楡葉町	9	浪江町	9	陸前高田市	6
名取市	9	石巻市	7	富岡町	5
南三陸町	8	気仙沼市	5	仙台市	4
宮古市	6	陸前高田市	5	千代田区	4
女川町	6	千代田区	4	南三陸町	4
千代田区	5	釜石市	3	名取市	4
石巻市	4	宮古市	3	宮古市	3
双葉町	3	仙台市	3	大槌町	3
大熊町	3			福島第一原発	3
大船渡市	3			浪江町	3
南相馬市	3				
浪江町	3				

(3件以上表示)



写真1 2015年フジテレビ「震災と原発と日本の覚悟」



写真5 2011年日本テレビ「情報ライブ ミヤネ屋」



写真2 2012年NHK「明日へ 震災から1年」



写真6 2016年NHK「明日へ〜つなげよう」



写真3 2017年TBS「3.11 7年目の真実」



写真7 2012年日本テレビ「復興テレビ みんなのチカラ」



写真4 2013年フジテレビ「希望の轍2013」



写真8 2013年フジテレビ「FNNスピーク」





写真9 2016年NHK「明日へ〜つなげよう」



写真10 2015年日本テレビ「情報ライブ ミヤネ屋」

## 【写真4】

「南三陸さんさん商店街」

5位 宮城県気仙沼市：  
「<sup>ししおり</sup>鹿折地区」(第18共徳丸) 【写真5】6位 宮城県名取市：  
「<sup>ゆりあげ</sup>閑上地区」(閑上中学校) 【写真6】7位 岩手県宮古市：  
「田老地区」(たろう観光ホテル, 防潮堤) 【写真7】

8位 岩手県大槌町: 旧役場庁舎 【写真8】

9位 福島県楡葉町: 除染廃棄物 (黒い袋) 【写真9】

10位 福島第一原発 【写真10】

もちろん、これら以外の風景や事物が映し出されることもあったが、上記を映した映像は、今回の震災を象徴する場所、事物として、複数の年、番組で繰り返し映し出されていた。

そこで、上位となった中継地のうち、事例として、岩手、宮城、福島の各県から1市町村ずつ選び(岩手県陸前高田市、宮城県南三陸町、福島県浪江町)、それぞれの地点でどのような映像が映し出されていたか、それがどのように変化したかをより具体的にみてみた。

## 【岩手県陸前高田市】

○津波被害の大きかった沿岸部(高田地区)からの中継が多い。特に津波に耐えて1本だけ残った「奇跡の一本松」は、震災および復興の象徴のような存在として、複数の年、複数の番組で映し出されていた。

○特に、2014年、2015年には、多くの局・番組が、地域の土地のかさ上げ工事の土砂運搬用に建設された巨大ベルトコンベア(希望の架け橋)との組み合わせで紹介した。

○2016年以降、かさ上げ工事が進むと、かさ上げされた土地や防潮堤の映像が増え、一本松への集中は相対的に減少した。2017年には、中継の地点はかさ上げ地に建設中の新店舗施設に移行し、一本松は遠景に後退した【写真11】。



写真11 2017年テレビ朝日「スーパーJチャンネル」(中央に「奇跡の一本松」)

## 【宮城県南三陸町】

○沿岸部の志津川地区からの中継がほとんど。  
○43人の犠牲者を出し、鉄骨のみが残った

「南三陸町防災対策庁舎」が、震災被害の象徴のように、必ず映し出される。番組冒頭に使われることも多い（タイトル映像分析参照）【写真12】。



写真12 2016年フジテレビ「FNNスピーク」

に移設された「南三陸さんさん商店街」に移り、「遺構」としての保存が決まった「防災対策庁舎」は遠景にとどまるようになっている【写真13】。



写真13 2017年テレビ朝日「スーパーJチャンネル」(中央に「防災対策庁舎」)

○「防災対策庁舎前」を中継拠点とする番組も多い。フジテレビ夜のキャスターニュース番組では、2014年から2016年の3年間、毎年この場所を中継拠点としたほか、

2014年

フジテレビ 「とくダネ!」「ニュースJAPAN」

2015年

フジテレビ 「ニュースJAPAN」

テレビ朝日 「スーパーJチャンネルスペシャル “4年後”のすがた」

2016年

テレビ朝日 「スーパーJチャンネルスペシャル 東日本大震災から5年～全編LIVE “25”のいま～」

TBS 「NEWS23」

フジテレビ 「あしたのニュース」

の各番組が、この場所を中継拠点としていた。

○特に庁舎を震災遺構として保存するか解体するかの議論が高まっていた2014年、2015年には、震災遺構に関する象徴的な場所としても取り上げられていた。

○しかし、周辺地域の整備が進んだ2017年になると、中継の焦点は、かさ上げされた土地

### 【福島県浪江町】

○沿岸部の請戸地区か、JR常磐線浪江駅前地区からの中継。特に請戸地区が大半を占める。

○請戸地区からの中継は、何年経ってもほとんど風景に変化のない海岸地区の津波跡地と、そこから見える福島第一原発排気塔が、同じようなパターン（排気塔へのズームインあるいはズームバック、がれきや波除ブロック越しの排気塔映像など）で映し出される。

○請戸小学校やその周辺は、中継拠点として番組進行の中心になることも多い。以下の各番組である。

2012年

TBS 「サンデーモーニング」

2014年

テレビ朝日 「スーパーJチャンネルスペシャル “3年後のすがた”」

2016年

フジテレビ 「みんなのニュース」

○請戸地区および「福島第一原発排気塔」の登場頻度は、あまり変化していない（減少し

ていない)。

### 震災を象徴する事物の存在と中継

みてきたように、中継地点として選ばれた地点には、「奇跡の一本松」「南三陸町防災対策庁舎」「福島第一原発排気塔」などのように、今回の震災を象徴するような、いわば“絵になる”事物が存在していた。このことと、中継地点としての選択に明確な因果関係があるかどうかは立証しにくいですが、1つの例として「第18共徳丸」が打ち上げられていた宮城県気仙沼市の場合をみてみたい。

津波被害の象徴的な存在として、震災直後には、多くの「陸に打ち上げられた船」の映像が映し出された。その中で代表的なのが、宮城県気仙沼市鹿折地区に打ち上げられていた「第18共徳丸」だった。この「第18共徳丸」の前が番組の中継拠点として選ばれたこともしばしばである(2012年TBS, 2013年フジテレビなど)。

しかし、2013年10月にこの船が解体・撤去されたのと呼応するかのように、2012年、2013年は中継地として第1位にランキングされていた気仙沼市の順位が2014年には4位に下がり、2015年、2016年には上位に登場しなくなる(表10参照)。

この事例だけから結論づけることはできないが、象徴的で絵になる事物の存在と、中継地としての選択には、何らかの関係がありそうである。

震災被害を象徴する事物としては、こうした風景として映像化されるもののほか、より記号的に象徴の役割を果たしているものもある。

例えば、放射能汚染やその被害を示す際に頻繁に登場する防護服や線量計【写真14】【写真15】、鎮魂・追悼を示す記号としてのキャンドルや風船、時間の経過や記憶を示す記号とし

ての時計などである【写真16】【写真17】。



写真14 2017年NHK「明日へ〜つなげよう〜」



写真15 2012年NHK「明日へ〜震災から1年」



写真16 2016年フジテレビ「みんなのニュース」



写真17 2014年日本テレビ「news zero」

これらの映像がどのような頻度で現れていたかについては、事例として、午後2時46分を含む番組での出現状況を調べたので、後述する。

### Ⅲ-2-3 中継部分での出演者

表11, 12は、中継部分での中継地におけるレギュラー司会者以外の出演者・被取材者について、その立場（役割）別に集計したものである。

年別にみると、被災者の出演は、2012年には延べ96人であったものが、2013年には37人、2014年には30人、2015年に15人と減少し続ける。5年後の節目の2016年には26人と増えるが、2017年には18人、2018年には20人とま

た少なくなっている。

一方でタレントの出演は、2012年の26人から翌2013年には10人へと減少、2014年、2015年は1桁だが、5年後の2016年には27人と2012年を上回るほか、2017年、2018年も2桁の人数となっている。被災者の出演が減る一方で、タレントの位置づけが相対的に大きくなっているようにもみえる。

表11の人数は、6つの放送局の出演者を足し上げたものだが、局別にみると（表12）、NHKは放送量が多いこともあって、被災者の出演が圧倒的に多いことがわかる。また同局ではタレントの出演も多く、さらに支援者や行政担当者・責任者も民放に比べ多い。

表11 中継部分の出演者数の変化

	中継部分でのレギュラー司会者以外の出演者(人)					
	被災者	支援者	責任行政担当者	評解説家	タレント	その他
2012年3月11日	96	13	19	3	26	4
2013年3月11日	37	8	13	2	10	0
2014年3月11日	30	1	13	1	6	4
2015年3月11日	15	3	12	3	5	1
2016年3月11日	26	10	11	2	27	0
2017年3月11日	18	10	11	2	14	10
2018年3月11日	20	14	8	0	15	2

表12 中継部分の出演者数（局別）

	中継部分でのレギュラー司会者以外の出演者(人)					
	被災者	支援者	責任行政担当者	評解説家	タレント	その他
NHK総合	103	45	34	5	51	13
日本テレビ	52	2	6	3	22	2
テレビ朝日	24	2	12	0	7	0
TBS	43	5	17	0	14	4
テレビ東京	0	0	1	1	0	0
フジテレビ	20	5	17	4	9	2

☆同一人物が複数の番組に登場している場合がある（延べ人数）  
 ☆同一人物が複数の立場にカウントされている場合がある（支援者でありタレントなど）  
 ☆団体での出演（合唱団など）は、団体一括で数え、その他にカウントした

表13に、出演した被災者がどういった人たちであったかを、番組での紹介に準じて示した。2012年には、漁業従事者や水産加工業者、商店経営者、仮設住宅住民のほか、津波被害からの生還者も多く出演し、被災時の体験を語っていた。2013年にも、水産業界関係者、商店経営者や仮設住宅自治会長などが出演しているほか、この年ごろから議論が生まれていた震災遺構の保存・解体に関して、賛成派・反対派の住民にそれぞれ意見を聞いた番組もあった。

2014年以降も引き続き、仮設住宅住民・自治会長や水産業界関係者が出演しているが、このころから、震災の教訓や記憶を写真や語りとして伝え続けようとする人々も登場し始める。2016年ごろからは、居住制限や避難指示が解除されたのに伴い、元の町に帰還した住民が登

表 13 中継部分の出演者（被災者）

年	NHK総合	日本テレビ	テレビ朝日	TBS	フジテレビ
2012	水産業者 仮設住宅自治会長 商店経営者 津波から生還した人 医師 患者	仮設住宅住民 自治会長	仮設住宅住民 津波から生還した人	商店経営者 震災復興市民委員会リーダー 青年会会長 高校生 シンガーソングライター 遺族	駅清掃員 鉄道運転士 小学校校長、卒業生 高田松原を守る会会長 経営者
2013	仮設食堂運営者 造船会社員 住職 小型船組合組合長 水産加工業者	商店経営者 教師 合唱団員 仮設住宅自治会長 水産業者	水産加工業組合長 企業経営者	遺構保存賛成派、反対派 小学生・教師（避難住民） 商店経営者 水産業者	商店経営者
2014	仮設住宅自治会長 被災ホテル経営者	ホテル支配人・経営者 司法書士 高校生	仮設住宅自治会長 被災ホテル経営者 仮設住宅住民	水産業者 復興屋台村商店経営者 地元アイドル歌手	合同追悼式遺族代表 商店経営者
2015		テレビカメラマン 避難住民	仮設住宅住民	被災地を撮影する住民 仮設住宅住民 漁師	農業 「いのちの教科書」作成者
2016	朝市代表理事 語り部 仮設住宅自治会長 遺族 街づくり協議会会長 鉄道運転士 水産合同会社代表	帰還住民 水産業者 教師 仮設住宅住民	避難住民 仮設住宅住民 温泉宿経営者	兼業農家	
2017	地元新聞社員 会社・商店経営者 商店街会長	遺族 商店経営者	遺族 仮設商店街関係者		会社・商店経営者 教師
2018	帰還住民 ホテル経営者・従業員 仮設住宅自治会長	遺族		商店街経営者	農業

場するようになる。また、新たな商店街や、街づくり、水産関係企業など、復興に向けた事業に携わる人々も登場するようになっていく。

表14は、中継地で出演したタレントなどの出演者である。被災地にゆかりのあるタレントや、災害報道に詳しいジャーナリストは、その経験談や感想、コメントによって視聴者と被災地・被災者をつなぐ役割を果たすものと考えられるため、どのような人々がどのくらい起用されているかをみてみた。

NHKでは、福島県出身の梅沢富美男、宮城県出身の高橋ジョージ、岩手県陸前高田市出身で実家が被災した村上弘明、宮城県仙台市出身の森公美子、岩手県出身の福田萌、宮城県女川町出身の中村雅俊など、被災地出身者のほか、被災地支援の活動を行っている渡辺謙や小林

武史、被災地で取材執筆活動をするいとうせいこう、被災地応援の歌「花は咲く」を作詞した岩井俊二（仙台市出身）など、支援活動に関連した人物の起用が目立つ。

民放では、梅沢富美男や、仙台市出身のサンドウィッチマン（伊達みきお、富澤たけし）などのほか、日本テレビの鎌田實、テレビ朝日の吉岡忍のように、複数年にわたって同じ出演者がコメンテーターとして出演する傾向がみられた。

5年後の節目であった2016年には、民放も含め各局の番組で中継地にタレントやジャーナリストなどの出演がみられたが、2013～2015年や2017年以降には、中継地でのタレント出演のない局（番組）も多くなっている。

表 14 中継部分の出演者（タレント）

年	NHK総合	日本テレビ	テレビ朝日	TBS	フジテレビ
2012	村上弘明(俳優) 梅沢富美男(タレント) 高橋ジョージ(歌手) 川口春奈(女優) 渡辺謙(俳優)	平原綾香(歌手) 宮本笑里 (バイオリニスト) 荒川静香 (フィギュアスケーター) 羽生結弦 (フィギュアスケーター) 田村岳斗 (フィギュアスケーター) 本田武史 (フィギュアスケーター) YUI(歌手)	長瀬剛(歌手)	寺島実郎(評論家) 金子勝(大学教授) 生島ヒロシ(タレント) 伊達みきお(タレント) 富澤たけし(タレント) 三屋裕子(タレント)	倉本聰(脚本家)
2013	大石芳野(写真家) 村上弘明(俳優) 藤本隆宏(俳優)	春香クリスティーン (タレント) 梅沢富美男(タレント) 鎌田實(医師・作家)			
2014		梅沢富美男(タレント) 松尾貴史(タレント)		熊谷亜莉咲 (地元アイドル歌手) 鈴木麻莉夏 (地元アイドル歌手) 高橋里瀬 (地元アイドル歌手)	
2015	岩井俊二(映画監督)	梅沢富美男(タレント)			西田敏行(俳優) 青沼陽一郎 (ジャーナリスト) 津田大介 (ジャーナリスト)
2016	村上弘明(俳優) 森公美子(歌手) 鎌田實(医師・作家) 福田萌(タレント) 山崎静代(タレント) 伊勢谷友介(俳優) 糸井重里(コピーライター) はるな愛(タレント)	梅沢富美男(タレント) ガダルカナルタカ (タレント) 優木まおみ(タレント) 鎌田實(医師・作家)	吉岡忍 (ノンフィクション作家)	渡部陽一(カメラマン) なすび(タレント)	津田大介 (ジャーナリスト)
2017	千原ジュニア(タレント) 板尾創路(タレント) カンニング竹山(タレント) 渡辺満里奈(タレント) 堤幸彦(映画監督) 高橋みなみ(タレント) 加藤諒(俳優)	鎌田實(医師・作家)	吉岡忍 (ノンフィクション作家) 山川恵里佳 (タレント) マギー審司 (タレント)		
2018	足立梨花(タレント) 小池栄子(女優) 春風亭昇太(落語家) 中村雅俊(俳優) 平田オリザ(劇作家) カンニング竹山(タレント) 篠山輝信(俳優) マギー審司(タレント) 小林武史(音楽プロデューサー) Salyu(歌手) いとうせいこう(文筆家)	鎌田實(医師・作家)	吉岡忍 (ノンフィクション作家)		

### Ⅲ-3 3月11日午後2時46分を含む番組

毎年3月11日には、発災時刻の午後2時46分を中心に、東京都千代田区の国立劇場での政府主催の追悼式典をはじめとして、各地で追悼行事が行われ、午後2時46分には被災地などで1分間の黙とうが行われる。本節では、これらを伝える番組が、どのような内容を伝えてきたのか、どう変化しているのかについてみてみたい。

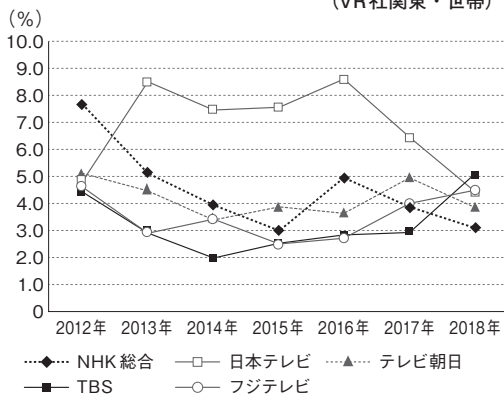
#### Ⅲ-3-1 視聴率の傾向

表15(106p)は、毎年この時間に関連番組を放送してきた5局について、各年の、午後2時46分を含む番組を示したものである。

視聴率の欄の数値は、ビデオリサーチ社の関東地区、盛岡地区、仙台地区、福島地区の世帯視聴率である。

関東地区の視聴率の推移を図13に示した。2012年はNHKが民放を上回ったが、2013年以降は日本テレビの番組のほうが上回るようになる。NHKは2013年、2014年、2016年は日本テレビに次ぐ視聴率を保っていたが、2018年には、この5局のうちでは最も低い視聴率となった。

図13 午後2時46分を含む番組の視聴率推移  
(VR社関東・世帯)



被災3県の各地区の視聴率は、総じて関東地区よりも高い。特にNHKの番組が東北3地区で高くなっている。

2012年、東北3地区ではNHKの番組がいずれも10%を上回ったほか、民放の番組にも10%を超えたものがある。

2013年にはどの局の番組も1桁だが、総じて東京より高い。2014年、JR富岡駅前を中継拠点とした日本テレビ系列の「情報ライブ ミヤネ屋」は福島地区で10%を超えたほか、岩手県の盛岡地区でも比較的高い視聴率を得ていた。この番組は、2015年にも福島県(郡山市)を中継拠点としており、このときは、福島地区15.6%、盛岡地区14.4%と高視聴率となっている。関東地区でもこの番組の視聴率が最も高いが、それでも7.6%にとどまった。

5年の節目の2016年は、宮城県名取市を中継拠点としたNHKの番組が、宮城県仙台地区で10%を超えたほか、盛岡地区、福島地区でも9%台の視聴率を得たのに対し、関東地区では4.9%にとどまった。

2017年には、またいずれの地区でも10%を超える番組はなくなり、東北3地区に比べて関東地区が低い傾向が続いた。

2018年も2017年とほぼ同様であった。この中で東北3地区では、日本テレビ系列の「news every. 特別版 東日本大震災から7年 災害の新常識」が仙台地区で11.3%を獲得しているのが目を引く。視聴者の側も、防災関連の番組への関心が高まってきているのだろうか。

7年間の視聴率の推移をみると、関連番組の視聴率が徐々に低下している傾向がみえる。こうした状況は、特に民放にとって、震災関連の報道を続けることを難しくする要因の1つになるのかもしれない。

視聴率と番組の内容や中継地点などとの関

表15 3月11日午後2時46分を含む番組の中継拠点と視聴率

年	局	番組名	放送時間	中継拠点(番組MCがいる場所)	ビデオ・リサーチ世帯視聴率				
					関東	(岩手県)	(盛岡県)	(宮城県)	仙台 (福島市)
2012	NHK総合	明日へー支えあおうー東日本大震災から1年(第4部)	13:05~16:25	宮城県石巻市(石巻高校)	7.7	10.0	13.4	11.4	
	日本テレビ	復興テレビ みんなのチカラ3.11(第1部)	12:45~17:25	福島県会津若松市(仮設住宅)	4.8	12.2	6.4	8.6	
	テレビ朝日	つながろう! ニッポン(第2部)スーパーJチャンネルスペシャル	13:00~16:00	宮城県南三陸町	5.1	7.9	7.4	8.0	
	TBS	JNN報道特別番組 Nスタ×NEWS23クロス3.11絆スペシャル	13:54~16:24	宮城県気仙沼市(第18共徳丸前)	4.4	7.2	10.2	7.1	※
	フジテレビ	FNN報道特別番組 東日本大震災から1年…希望の轍	12:00~16:00	<東京スタジオ>	4.6	7.2	8.5	8.3	
2013	NHK総合	特集 明日へー支えあおうー東日本大震災から2年(第3部)	14:38~16:00	岩手県大槌町	5.2	8.7	8.7	5.7	
	日本テレビ	情報ライブ ミヤネ屋	13:55~15:50	福島県南相馬市小高区	8.5	8.6	3.7	6.4	※
	テレビ朝日	スーパーJチャンネルスペシャル “震災”いまも…732日目の現実(第1部)	13:55~16:54	福島県南相馬市小高区	4.5	4.6	6.5	5.1	※
	TBS	3.11報道特別番組 大震災2年 復興と現実被災地の「今」あなたは知っていますか(第1部)	14:05~17:00	宮城県気仙沼市(復興屋台村)	3.0	5.3	4.0	2.5	
	フジテレビ	FNN報道特別番組 東日本大震災から2年 希望の轍2013 東北を歩こう	14:00~15:52	宮城県気仙沼市(第18共徳丸前)	2.9	4.5	5.6	4.9	
2014	NHK総合	情報まるごと	14:05~15:35	<東京スタジオ>	3.9	6.1	6.2	7.0	
	日本テレビ	情報ライブ ミヤネ屋	13:55~15:50	福島県富岡町(JR富岡駅前)	7.4	8.7	3.3	10.8	※
	テレビ朝日	スーパーJチャンネルスペシャル 東日本大震災から3年	13:55~19:00	福島県浪江町(請戸小学校)	3.4	4.0	5.7	2.9	※
	TBS	報道特別番組 震災3年 復興と未来“これから”のために	14:00~15:50	宮城県気仙沼市	2.0	3.7	5.5	1.9	※
	フジテレビ	FNN東日本大震災から3年 あの日が教えてくれること	14:00~16:50	<東京スタジオ>	3.4	6.0	5.9	5.9	
2015	NHK総合	情報まるごと	14:05~15:35	<東京スタジオ>	3.0	5.5	4.8	3.0	
	日本テレビ	情報ライブ ミヤネ屋	13:55~15:50	福島県郡山市(福島中央テレビ)	7.6	14.4	3.5	15.6	
	テレビ朝日	スーパーJチャンネルスペシャル “4年後”のすがた	14:00~19:00	宮城県南三陸町(防災対策庁舎前)	3.8	6.4	8.7	2.2	※
	TBS	大震災4年 Nスタスペシャル 被災地の今、思いあたらに	13:55~15:53	<東京スタジオ>	2.5	3.0	4.9	2.2	
	フジテレビ	FNN報道特別番組 震災と原発と日本の覚悟	14:00~16:50	福島県楡葉町(Jヴィレッジ)	2.5	2.9	4.3	3.9	
2016	NHK総合	特集 明日へーつなげようー東日本大震災から5年(第3部)	14:05~15:31	宮城県名取市(メイプル館)	4.9	9.1	10.2	9.2	
	日本テレビ	情報ライブ ミヤネ屋 震災5年 復興の現在地	13:55~15:50	福島県楡葉町	8.6	8.6	2.2	8.4	
	テレビ朝日	スーパーJチャンネルスペシャル 東日本大震災から5年～全編LIVE“25”のいま～	14:00~19:00	宮城県南三陸町(防災対策庁舎前)	3.6	3.9	6.6	1.8	※
	TBS	Nスタ 3.11震災5年 記憶を未来へ伝える力	13:55~15:53	<東京スタジオ>	2.8	3.7	4.5	3.1	※
	フジテレビ	直撃LIVE グッディ!	13:55~15:50	宮城県女川町(シーパルピア女川)	2.7	3.9	4.1	2.4	
2017	NHK総合	特集 明日へーつなげようー東日本大震災から6年(第1部)	13:50~15:26	<東京スタジオ>	3.8	6.7	5.3	7.4	
	日本テレビ	NNN news every. 特別版 震災6年…未来への、キオク	13:30~15:00	宮城県南三陸町(高野会館)	6.4	8.9	3.0	8.1	
	テレビ朝日	スーパーJチャンネルスペシャル 映像が語る“あのとき”	13:59~15:30	宮城県石巻市(大川小学校)	4.9	7.0	7.1	3.6	
	TBS	3.11 7年目の真実	14:00~15:54	宮城県気仙沼市	2.9	4.4	7.2	5.4	
	フジテレビ	FNN報道特別番組 日本を襲う巨大地震 忘れていないか3.11	14:00~15:30	<東京スタジオ>	4.0	4.0	7.4	6.5	
2018	NHK総合	特集 明日へーつなげようー東日本大震災から7年	13:05~17:00	<仙台スタジオ>	3.2	6.0	7.2	4.2	※
	日本テレビ	NNN news every. 特別版 東日本大震災から7年 災害の新常識	13:15~15:00	岩手県大槌町(旧役場庁舎前)	4.4	7.1	11.3	5.3	
	テレビ朝日	ANN報道特別番組 東日本大震災から7年 スーパーJチャンネルスペシャル	13:55~15:20	宮城県気仙沼市(気仙沼向洋高校)	3.8	3.5	9.1	6.7	
	TBS	Nスタスペシャル 震災7年 生死を分ける72時間 巨大地震にあなたは	14:00~15:54	宮城県南三陸町(さんさん商店街)	5.1	6.5	4.1	6.0	
	フジテレビ	FNN3・11報道特番 その避難は正解か!?	13:00~15:10	<東京スタジオ>	4.5	4.2	4.5	4.4	

※長時間番組で番組視聴率が複数部に分けて算出されている場合は第一部の数値。

網かけ=10%以上



係については、稿を改めて詳しく分析したいと考えている。

### Ⅲ-3-2 テーマの変化：被災地状況から防災へ

表16(108p)右欄は、番組で取り上げたテーマを示している(番組内で取り上げたものに○印)。

2016年までは、追悼行事のほか、被災地の状況、被災者自身の声やその生活、復興の現状・課題などが主なテーマであった。

2017年以降になると、被災当時の状況を振り返ったり検証したりするほか、次の災害への備えに関する内容が増えている。また、東日本大震災だけでなく、直近の災害への言及も増えている。地震だけでなく、大規模な水害も起きている昨今、東日本大震災に特化せず、さまざまな災害を扱う傾向は、今後ますます強まるのではないかと思われる。

2018年の特徴として、「目線カメラ」やVR技術を使った駅舎や鉄道の再現プロジェクトなど、最新技術を使った企画も目立った。震災当時の検証や今後の災害への備えについて、こうした最新技術の活用も増えることが予想される。

### Ⅲ-3-3 震災を象徴する事物の映像

前述した、震災を象徴する事物の映像がどのくらい現れているかについて、これらの番組を事例として調べてみた。表17(109p)は、代表的な事物のうちのいくつかについて、番組中に映し出されたかどうかを調べたものである。◎は中継で、●はVTRか写真の中で登場したものである。

「第18共徳丸」は、津波の威力や被害を象徴する映像として使われ、中継の拠点ともなっていた(2012年TBS「Nスタ×NEWS23クロス、2013年フジテレビ「希望の轍2013」)。しか

し、2013年10月に解体撤去されたあと、登場頻度は激減し、記録写真として時折登場するにとどまっている。

「三陸鉄道」は、被害と復興の象徴として、複数の番組で取り上げられている(特にフジテレビ)。2014年の全線開通後は、登場頻度が下がる。

岩手県陸前高田市の「奇跡の一本松」も、津波被害と希望の象徴として複数の番組に複数年登場する。特に2014年、2015年には、隣接する巨大ベルトコンベアーとの組み合わせで多くの番組に登場した。しかし、ベルトコンベアーは2015年から解体され、2017年のかさ上げ工事の完了とともに「一本松」も後景化し始める。

宮城県の「南三陸町防災対策庁舎」も、非常に頻繁に登場する。複数年にわたり、複数の番組で、中継拠点ともなった。震災遺構として残すかどうかという問題を伝える際にも、その象徴的存在として取り上げられた。しかしこの存在も、かさ上げ工事が進み、2017年に「南三陸さんさん商店街」がかさ上げ地に移設されると、中継の焦点はそちらに移り、「防災対策庁舎」は後景化することとなった。

この「南三陸さんさん商店街」をはじめとする復興商店街は「復興」の象徴として取り上げられることが多く、このほかにも、宮城県女川市の「シーパルピア女川」(2015年12月開業)や岩手県陸前高田市の「アバッセたかた」(2017年4月開業)などが取り上げられていた。

請戸地区の海岸から見た「福島第一原発排気塔」については前述したが、このほかにも、原発事故や放射能汚染を示すアイコンとして、「白い防護服」「線量計(とその数値)」「(除染廃棄物が入った)黒い袋」などの映像が多用されていた。ただ、「線量計」や「防護服」は、2015年までは、多くの番組に映し出されていたが、2016

表16 3月11日午後2時46分を含む番組で  
触れられた内容

			被災地の状況	被災者の声	被災者の生活	被災当時の状況・検証	捜索活動	呼びかけ	支援・支援の	追悼行事	教訓	記憶の継承	復興の現状・課題	メカニズム	災害の	現在の災害	備え防災	次の災害への	
2012年	NHK総合	明日へー支えあおうー東日本大震災から1年(第4部)	13:05~16:25	○	○	○			○	○									
	日本テレビ	復興テレビ みんなのチカラ3.11(第1部)	12:45~17:25	○	○	○	○	○	○	○			○						
	テレビ朝日	つながろう! ニッポン(第2部)スーパーJチャンネルスペシャル	13:00~16:00	○	○	○	○				○	○							
	TBS	JNN報道特別番組 Nスタ×NEWS23クロス 3.11絆スペシャル	13:54~16:24	○	○	○	○				○		○						○
	フジテレビ	FNN報道特別番組 東日本大震災から1年…希望の轍	12:00~16:00	○	○	○			○	○			○						
2013	NHK総合	特集 明日へー支えあおうー東日本大震災から2年(第3部)	14:38~16:00	○	○	○				○			○						
	日本テレビ	情報ライブ ミヤネ屋	13:55~15:50	○		○			○	○	○	○							
	テレビ朝日	スーパーJチャンネルスペシャル ~"震災"いまも…732日目の現実~(第1部)	13:55~16:54	○		○	○			○	○	○							○
	TBS	3.11報道特別番組 大震災2年 復興と現実被災地の「今」あなたは知っていますか(第1部)	14:05~17:00	○		○	○		○	○	○	○							
	フジテレビ	FNN報道特別番組 東日本大震災から2年 希望の轍2013 東北を歩こう	14:00~15:52	○		○				○	○	○	○						
2014	NHK総合	情報まるごと	14:05~15:35	○		○	○			○			○						
	日本テレビ	情報ライブ ミヤネ屋	13:55~15:50	○		○				○			○						
	テレビ朝日	スーパーJチャンネルスペシャル 東日本大震災から3年	13:55~19:00	○		○	○			○			○						○
	TBS	報道特別番組 震災3年 復興と未来"これから"のために	14:00~15:50	○		○			○	○	○	○							
	フジテレビ	FNN東日本大震災から3年 あの日が教えてくれること	14:00~16:50	○		○	○			○			○	○					
2015	NHK総合	情報まるごと	14:05~15:35	○	○	○			○	○	○								
	日本テレビ	情報ライブ ミヤネ屋	13:55~15:50	○		○		○		○			○						
	テレビ朝日	スーパーJチャンネルスペシャル "4年後"のすがた	14:00~19:00	○		○	○			○	○	○							○
	TBS	大震災4年 Nスタスペシャル 被災地の今、思いあたらに	13:55~15:53	○		○			○	○	○	○							
	フジテレビ	FNN報道特別番組 震災と原発と日本の覚悟	14:00~16:50	○		○				○			○						
2016	NHK総合	特集 明日へ〜つなげよう〜東日本大震災から5年(第3部)	14:05~15:31	○		○				○									
	日本テレビ	情報ライブ ミヤネ屋 震災5年 復興の現在地	13:55~15:50	○		○				○			○						
	テレビ朝日	スーパーJチャンネルスペシャル 東日本大震災から5年〜全編LIVE"25"のいま〜	14:00~19:00	○		○				○	○	○							
	TBS	Nスタ 3.11震災5年 記憶を未来へ伝える力	13:55~15:53	○		○	○			○			○						
	フジテレビ	直撃LIVE グッデイ!	13:55~15:50	○		○				○			○						
2017	NHK総合	特集 明日へ〜つなげよう〜東日本大震災から6年(第1部)	13:50~15:26	○		○				○	○	○							
	日本テレビ	NNN news every. 特別版 震災6年…未来への、キオク	13:30~15:00			○	○			○	○								○
	テレビ朝日	スーパーJチャンネルスペシャル 映像が語る"あのとき"	13:59~15:30			○	○			○	○	○							
	TBS	3.11 7年目の真実	14:00~15:54	○		○				○									○
	フジテレビ	FNN報道特別番組 日本を襲う巨大地震 忘れていないか3.11	14:00~15:30	○		○	○			○	○								○
2018	NHK総合	特集 明日へ〜つなげよう〜東日本大震災から7年	13:05~17:00	○		○			○	○	○	○							
	日本テレビ	NNN news every. 特別版 東日本大震災から7年 災害の新常識	13:15~15:00	○		○	○			○									○
	テレビ朝日	ANN報道特別番組 東日本大震災から7年 スーパーJチャンネルスペシャル	13:55~15:20	○		○				○	○	○							
	TBS	Nスタスペシャル 震災7年 生死を分ける72時間 巨大地震にあなたは	14:00~15:54				○			○	○	○							○
	フジテレビ	FNN3・11報道特番 その避難は正解か!?	13:00~15:10			○	○			○									○

表17 3月11日午後2時46分を含む番組で映し出された事柄

			第18共徳丸	三陸鉄道	奇跡の本松	対策庁舎	南二陸町防災	小学校	石巻市大川	さん商店街	南二陸さん	福島第一原発排気塔 (浪江町語戸から)	除染廃棄物 (黒い袋)	線量計	防護服	時計	風船・灯ろう	キャンドル
2012年	NHK総合	明日へ 一支配あおうー 東日本大震災から1年(第4部)	●		●						○		○	○	○			
	日本テレビ	復興テレビ みんなのチカラ3.11(第1部)	●	●		●							●	●	●	○		
	テレビ朝日	つながろう!ニッポン(第2部) スーパーJチャンネルスペシャル	●		○	●	○	○			○		○	○	○	○		
	TBS	JNN報道特別番組 Nスタ×NEWS23 クロス 3.11絆スペシャル	●					●						●				
	フジテレビ	FNN報道特別番組 東日本大震災から1年…希望の轍	○	●	○							○		●	●			
2013	NHK総合	特集 明日へ 一支配あおうー 東日本大震災から2年(第3部)																
	日本テレビ	情報ライブ ミヤネ屋	○					●					●	●	○			
	テレビ朝日	スーパーJチャンネルスペシャル ～“震災”いまも…732日目の現実～(第1部)	○			●				○			●	●	○	○		
	TBS	3.11報道特別番組 大震災2年 復興と現実 被災地の「今」あなたは知っていますか(第1部)			○	●		○			○				○			
	フジテレビ	FNN報道特別番組 東日本大震災から2年 希望の轍2013 東北を歩こう	○	●	○	●	●					●	●	●	●	●	●	
2014	NHK総合	情報まるごと	●	●	○	●							●	●	●			●
	日本テレビ	情報ライブ ミヤネ屋												●	●			
	テレビ朝日	スーパーJチャンネルスペシャル 東日本大震災から3年			○	●	○	○	●	○		○	●	●	●	○	○	●
	TBS	報道特別番組 震災3年 復興と未来“これから”のために	●		○	●									●	●	○	
	フジテレビ	FNN東日本大震災から3年 あの日が教えてくれること		○		○							●	○	●			○
2015	NHK総合	情報まるごと			●							○					●	●
	日本テレビ	情報ライブ ミヤネ屋			○						○	○	●	●	●			
	テレビ朝日	スーパーJチャンネルスペシャル “4年後”のすがた			○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●		●
	TBS	大震災4年 Nスタスペシャル 被災地の今、思いあたらに			○	○						○	○	●	●			
	フジテレビ	FNN報道特別番組 震災と原発と日本の覚悟		●		●		○					○	●	●			
2016	NHK総合	特集 明日へ～つなげよう～ 東日本大震災から5年(第3部)	●															○
	日本テレビ	情報ライブ ミヤネ屋 震災5年 復興の現在地											●	○	○	○	○	
	テレビ朝日	スーパーJチャンネルスペシャル 東日本大震災から5年～全編LIVE“25”のいま～		●	○	○							●	○	●	●	○	○
	TBS	Nスタ 3.11震災5年 記憶を未来へ伝える力			○	○		●					●					
	フジテレビ	直撃LIVE グッディ!	●			○							○	●				○
2017	NHK総合	特集 明日へ～つなげよう～ 東日本大震災から6年(第1部)								●			●		●			
	日本テレビ	NNN news every. 特別版 震災6年…未来への、キオク								○	○						●	○
	テレビ朝日	スーパーJチャンネルスペシャル 映像が語る“あのとき”			○	○			○				●					
	TBS	3.11 7年目の真実						○			○		●					
	フジテレビ	FNN報道特別番組 日本を襲う巨大地震 忘れていないか3.11								○								
2018	NHK総合	特集 明日へ ～つなげよう～東日本大震災から7年		●														●
	日本テレビ	NNN news every. 特別版 東日本大震災から7年 災害の新常識			○	●	●										○	
	テレビ朝日	ANN報道特別番組 東日本大震災から7年 スーパーJチャンネルスペシャル			○	○				○		○	●				○	○
	TBS	Nスタスペシャル 震災7年 生死を分ける 72時間 巨大地震にあなたは				○			○								○	
	フジテレビ	FNN3・11報道特番 その避難は正解か!?				○	○			○				●				○

○中継映像 ●VTRまたは写真

年には使用が減り、2017年以降、この時間帯の番組ではほとんど見られなくなっている。

一方、「黒い袋」の映像は、2013年から現れ始め、2015年ごろをピークに毎年映し出されているが、2018年にはこの映像を使用したのは1番組のみとなっていた。

これらのほか、より象徴的な意味で利用されていたのが、震災発生時刻である午後2時46分を指したまま動きを止めた「時計」や、追悼行事などで用いられた「風船」や「キャンドル」「灯ろう」などの映像である。

「時計」は、壊れた建物の壁面に残されたものや、がれきの中に存在するものなど、さまざまな映像が多く番組で使われていた。特に、2012年のテレビ朝日「スーパーJチャンネルスペシャル」では、宮城県南三陸町の中継地に地震や津波の衝撃で止まった時計を集めて並べ、その前でキャスターらが番組を進行するという使い方をしていた【写真18】。「時計」の映像はどの年にもいずれかの番組で利用されている。

「風船」や「キャンドル」などは、震災で犠牲になった人々を追悼する行事を撮影する中で、空に向かって放たれる風船や3.11などの文字をかたどったキャンドル、川や海に流される灯ろうなどが映し出されていた。2012年、2013年には現れていなかったが、2014年以降頻繁に出現するようになっている。



写真18 2012年テレビ朝日「つなごろう! ニッポン」

### Ⅲ-3-4 「黙とう中」の映像分析：定型化する黙とうシーン

本稿では、東日本大震災に関する報道を各年3月 → 3月11日を中心とする1週間 → 3月11日 → 発災時刻である午後2時46分を含む番組へと、焦点を絞りながら分析を進めてきている。そこで次に、午後2時46分に各地で行われる1分間の黙とうのシーンを、各局がどのように伝えたか、そこでどのような映像が使われたかを分析する。

表18(112-113p)は各局の番組が、その1時間に映し出した地点のリストである。

NHKの場合は、各年ほとんど変化がなく、国立劇場で行われる政府主催追悼式での黙とうの様子を伝えている。使用される映像とその順番もほぼ変わらない。

民放では、黙とうの最初は政府主催追悼式の映像だが、途中から被災各地の黙とう風景に移り、最後にまた政府主催追悼式の会場に戻るといったパターンが多い。フジテレビやTBSは、ほぼそのパターンである。テレビ朝日は、政府主催追悼式から入るが、そのあとは、各地の黙とう風景で終わる場合が多い。日本テレビは、各地の黙とう風景から入り、最後に政府主催追悼式映像で締めくくるパターンが多いが、政府主催追悼式の映像を用いない年も少なくない。

表18中、網かけは、国立劇場の政府主催追悼式の映像、太字は、東日本大震災の被災を象徴する場所や風景である。

また☆は、複合的な画面構成をしていたものである。日本地図を挿入してその映像の場所を示したり、同時に行われている政府主催追悼式の様子を合成したものもあった。

民放各局の番組では、宮城、岩手、福島各県の象徴的な場所や事物を映した映像とともに、黙とうする人々の映像が使われていた点で

共通していた。

黙とうシーンの映像構成は、毎年ほぼ同じであるNHKはもとより、民放の各番組においても、ある程度パターン化しているといえるだろう。

なお、テレビ朝日の番組では、2012年から2014年の3番組で、時計を示す画像の中に人々の黙とうの様子が埋め込まれた加工などが施されていたが、2015年以降はシンプルなものになった【写真19(114-115p)】。

### Ⅲ-3-5 番組タイトル映像とラストコメント

番組のタイトル映像や、締めくくりのコメントには、番組で扱うテーマや伝えたいメッセージが凝縮して表れていると考えられる。そこで、午後2時46分を含む番組の分析の最後に、番組冒頭のタイトル映像と番組の締めくくりのコメントを抽出し、一覧できる形に整理した。

表19(116-117p)は、表15などに示した番組の冒頭、番組タイトルが映し出された時点で切り取って並べたものである。

2012年のNHKや2013年のTBSでは、各被災地の写真を多数使ったタイトルで被災地域の広がりや示していたほか、2012年TBS、2013年NHK、日本テレビなど、津波に襲われた跡の何もなくなった土地を映したものが多い。2012年のTBSなど、このころにはまだ撤去されずに残っていた岩手県気仙沼市の第18共徳丸も映し出されている。フジテレビは、2012年、2013年と連続して、「希望の轍」をタイトルに三陸鉄道の現状と復興を取り上げていた。

2014年には、岩手県陸前高田市の「奇跡の一本松」から巨大ベルトコンベアーの映像に続き、かさ上げ工事が進みつつある土地の写真に至ったNHKの番組のように、復興の進展を示すものも現れ始める。

2015年、2016年では、保存か解体かが議論

になっていた宮城県南三陸町の防災対策庁舎の映像が複数みられるが、津波跡の映像は少なくなってくる。

2017年以降は、被災地の学校(跡地含む)や漁港を中継地点として選びそこからオープニングタイトルを伝えたものはあるが、タイトル映像として津波跡地を映したものはみられなくなった。一方、被災者救出のヘリコプターのアップを使った番組や、「避難のありかた」を前面に出したタイトルなどが現れ、番組によっては、その中心メッセージが、東日本大震災被災地の現状や復興の課題などよりも、次の災害への備えに移ってきているように見受けられた。

表20(118-119p)は、番組の締めくくりのコメントをまとめたものである。

2012年は、1年後の節目ということもあり、長時間、あるいは複数の特集番組を組む局が多く、次に放送する震災関連番組の告知で締めくくっているものが多い(NHK、日本テレビ、テレビ朝日)。

また、この年と2013年の番組では、

「…被災された人々の今を思い、そして復興の進み具合をしっかりと見守りお伝えしながら、メディアとしての役割を果たしていきたいと考えております」(2012年TBS「Nスタ×NEWS23クロス3.11絆スペシャル」)

「…何かできることがあれば引き続き、みなさんと一緒に頑張っていきたいと思っております、今後もよろしくお願ひいたします」(2013年日本テレビ「情報ライブ ミヤネ屋」)などのように、被災者に寄り添い、見守り続ける気持ちを述べたものがみられた。

2014年になると、

「災害を自分の問題として考えることが備えにつながるのです」(2014年TBS「震災3年 復興と未来“これから”のために」)

表18 黙とう中の映像

2012年

	NHK総合	日本テレビ	テレビ朝日	TBS	フジテレビ
1	国立劇場地上慰霊台	止まった時計	国立劇場地上慰霊台	国立劇場地上慰霊台	国立劇場地上慰霊台
2	国立劇場会場内の人々	追悼式会場で黙とうする人々(岩手県陸前高田市)	国立劇場会場内の人々	国立劇場天皇皇后両陛下	国立劇場会場の人々
3	国立劇場天皇皇后両陛下	堤防の上の人々(岩手県宮古市田老)	国立劇場天皇皇后両陛下	手を合わせる人々	国立劇場天皇皇后両陛下
4	国立劇場会場内の人々	黙とうする人々(東京国立劇場追悼式)	時計(宮城県南三陸町)	手を合わせる人々	国立劇場会場の人々
5	国立劇場遺族代表	海岸で手を合わせる人々(福島県相馬市)	祈る女性(☆時計・天皇皇后両陛下)	追悼式会場で黙とうする人々	黙とうする人々(宮城会場)
6	国立劇場地上慰霊台	慰霊碑前の人々(宮城県名取市岡上)	祈る人々(宮城県石巻市大川小学校)(☆時計・国立劇場)	大川小学校(宮城県石巻市)	黙とうする人々(福島会場)
7		女性たちの横顔(福島県会津若松市)	海を見る人々(岩手県宮古市)(☆時計・国立劇場)	手を合わせる人々	黙とうする人々(岩手県陸前高田市)
8		黙とうする駅員たち(岩手県三陸鉄道田野畑駅)	黙とうする人々(岩手県宮古市)(☆時計・国立劇場)	国立劇場天皇皇后両陛下	奇跡の一本松(岩手県陸前高田市)
9			捜索隊の黙とう(宮城県名取市)(☆時計・国立劇場)		国立劇場地上慰霊台
10			打ち上げられた船-F1排気塔(福島県浪江町)(☆時計・国立劇場)		
11			祈る女性(岩手県陸前高田市)(☆時計・国立劇場)		
12			奇跡の一本松(岩手県陸前高田市)(☆時計・国立劇場)		

☆画面合成

2013

	NHK総合	日本テレビ	テレビ朝日	TBS	フジテレビ
1	国立劇場地上慰霊台	打ち上げられた第18共徳丸(宮城県気仙沼市)	国立劇場地上慰霊台	国立劇場地上慰霊台	国立劇場地上慰霊台
2	国立劇場会場内の人々	津波の跡の空き地(宮城県気仙沼市)	国立劇場会場内の人々	国立劇場会場内の人々	国立劇場会場内の人々
3	国立劇場天皇皇后両陛下	空き地で手を合わせる人(岩手県大槌町)	国立劇場天皇皇后両陛下	国立劇場天皇皇后両陛下	防災対策庁舎(宮城県南三陸町)
4	国立劇場会場内の人々	津波の跡の空き地(岩手県大槌町)	時計	黙とうする人々(岩手県大槌町追悼式会場)	黙とうする人々(宮城県南三陸町)
5	国立劇場遺族代表	追悼式会場で黙とうする人々(岩手県大槌町)	奇跡の一本松(岩手県陸前高田市)(☆時計・国立劇場)	黙とうする人々(宮城県石巻市大川小学校)	海岸(福島県いわき市)
6	国立劇場地上慰霊台	灯りのモニュメント(岩手県大槌町)	黙とうする捜索隊(宮城県亶理町)(☆時計・国立劇場)	風に吹かれる女性(宮城県石巻市大川小学校)	黙とうする人々(福島県いわき市)
7		黙とうする男性の後ろ姿(岩手県大槌町)	福島第一原発排気塔(福島県浪江町)(☆時計・国立劇場)	福島第一原発排気塔遠景(福島県浪江町)	黙とうする人々(岩手県大槌町追悼式会場)
8		黙とうする男女(福島県南相馬市)	黙とうする防護服姿の人々(福島県浪江町)(☆時計・国立劇場)	黙とうする防護服姿の人々(福島県浪江町)	黙とうする人々(宮城県気仙沼市)
9		黙とうする人々(国立劇場)	黙とうする男性の後ろ姿(岩手県釜石市)(☆時計・国立劇場)	国立劇場地上慰霊台	船の下の献花台(宮城県気仙沼市)
10	国立劇場地上慰霊台		打ち上げられた第18共徳丸(宮城県気仙沼市)(☆時計・国立劇場)		国立劇場地上慰霊台
11			黙とうする女性の後ろ姿(岩手県宮古市田老地区)(☆時計・国立劇場)		
12			女性の持つ錫杖(岩手県宮古市田老地区)(☆時計・国立劇場)		
13			国立劇場地上慰霊台		

2014

	NHK総合	日本テレビ	テレビ朝日	TBS	フジテレビ
1	国立劇場地上慰霊台	黙とうする人々(宮城県石巻市日和山)	国立劇場地上慰霊台	国立劇場地上慰霊台	国立劇場地上慰霊台
2	国立劇場会場内の人々	沿岸の津波跡地(岩手県山田町)	国立劇場天皇皇后両陛下	国立劇場会場内の人々	国立劇場会場内の人々
3	国立劇場天皇皇后両陛下	追悼式会場(岩手県山田町)	時計	国立劇場天皇皇后両陛下	国立劇場天皇皇后両陛下
4	国立劇場地上慰霊台	会場で黙とうする人々(岩手県山田町)	防災対策庁舎(宮城県南三陸町)(☆日本地図・両陛下)	黙とうする人々(岩手県山田町)	三陸鉄道車両(岩手県三陸鉄道)
5	国立劇場閣僚	慰霊碑前で黙とうする人々(福島県富岡町)	防災対策庁舎・献花台(宮城県南三陸町)(☆日本地図・両陛下)	黙とうする人々(宮城県石巻市)	車内から黙とうする人々(岩手県三陸鉄道)
6	国立劇場遺族代表	海辺で黙とうする人々(福島県富岡町)	旧町役場と祈る人々(岩手県大槌町)(☆日本地図・両陛下)	黙とうする人々とキャンドル(宮城県石巻市)	黙とうする人々(宮城県名取市)
7	国立劇場地上慰霊台	国立劇場遺族代表	かれきとF1排気塔(福島県浪江町請戸小学校)(☆日本地図・両陛下)	黙とうする職員たち(福島県楡葉町Jヴィレッジ)	黙とうする人々(福島県いわき市)
8	国立劇場地上慰霊台		奇跡の一本松(岩手県陸前高田市)(☆日本地図・慰霊柱)	国立劇場地上慰霊台	黙とうする人々・俯敬(岩手県山田町追悼式会場)
9			黙とうする人々(岩手県陸前高田市)(☆日本地図・黙とうする人々)		国立劇場地上慰霊台
10			黙とうする人々(福島県いわき市下矢田応急仮設住宅)(☆日本地図・黙とうする人々)		
11			黙とうする人々(宮城県石巻市大川小学校)(☆日本地図・黙とうする人々)		
12			黙とうする人々(岩手県宮古市田老防潮堤)(☆日本地図・黙とうする人々)		

☆時計の録取り、画面変換の間に時計の映像

■：政府主催追悼式(国立劇場)

太字：東日本震災の被害を象徴する場所、風景

F1=福島第一原発

## 2015

	NHK総合	日本テレビ	テレビ朝日	TBS	フジテレビ
1	国立劇場壇上慰霊台	黙とうする人々(宮城県石巻市鹿島御児神社)	国立劇場壇上慰霊台	国立劇場壇上慰霊台	国立劇場壇上慰霊台(☆日本地図)
2	国立劇場会場内の人々	黙とうする人々俯瞰(岩手県野田村追悼式会場)	国立劇場会場内の人々	国立劇場会場内の人々	国立劇場会場内の人々(☆日本地図)
3	国立劇場内閣僚	黙とうする人々(岩手県野田村追悼式会場)	国立劇場内閣僚	国立劇場内閣僚	国立劇場内閣僚(☆日本地図)
4	国立劇場天皇皇后陛下	防潮堤工事(岩手県野田村)	黙とうする人々(岩手県宮古市田老地区)	海を見下ろす高台(岩手県陸前高田市)	黙とうする人々(宮城県石巻市大川小学校)(☆日本地図)
5	国立劇場内遺族代表	テラボットとF1排気塔(福島県浪江町)	大川小学校(宮城県石巻市)	黙とうする人々(岩手県陸前高田市)	黙とうする人々(岩手県野田村)(☆日本地図)
6	国立劇場壇上慰霊台	黙とうする捜索隊員たち(福島県浪江町)	黙とうする人々(宮城県石巻市大川小学校)	テラボットと捜索隊員(福島県浪江町)	黙とうする作業員(福島県楡葉町)(☆日本地図)
7		国立劇場内遺族代表	黙とうする捜索隊員たち(福島県浪江町)	黙とうする捜索隊員(福島県浪江町)	国立劇場壇上慰霊台(☆日本地図)
8		国立劇場壇上慰霊台	捜索隊員とF1排気塔(福島県浪江町)	防災対策庁舎(宮城県南三陸町)	
9				黙とうする人々(宮城県南三陸町)	
10				国立劇場壇上慰霊台	

## 2016

	NHK総合	日本テレビ	テレビ朝日	TBS	フジテレビ
1	国立劇場壇上慰霊台	黙とうする人々(宮城県石巻市鹿島御児神社)	国立劇場壇上慰霊台	国立劇場壇上慰霊台	国立劇場壇上慰霊台
2	国立劇場内閣僚	高台からの海(宮城県石巻市鹿島御児神社)	国立劇場内閣僚	国立劇場内閣僚	国立劇場内閣僚
3	国立劇場会場内の人々	黙とうする人々(宮城県石巻市鹿島御児神社)	黙とうする人々(岩手県宮古市田老地区)	防災対策庁舎前の人々(宮城県南三陸町)	寺の境内(岩手県陸前高田市)(☆日本地図)
4	国立劇場天皇皇后陛下	風船を持って黙とうする人々(宮城県石巻市鹿島御児神社)	奇蹟の一本松(岩手県陸前高田市)	黙とうする人々(宮城県南三陸町)	行方不明者の墓(岩手県陸前高田市)(☆日本地図)
5	国立劇場内閣僚と遺族代表	国立劇場内遺族代表	黙とうする人々(宮城県名取市)	黙とうする僧侶と人々(岩手県陸前高田市)	防災対策庁舎(宮城県南三陸町)(☆日本地図)
6	国立劇場内遺族代表	国立劇場壇上慰霊台	黙とうする人々(宮城県南三陸町)	奇蹟の一本松遠景(岩手県陸前高田市)	黙とうする僧侶と人々(宮城県南三陸町)(☆日本地図)
7	国立劇場壇上慰霊台		黙とうする捜索隊員(福島県浪江町)	慰霊碑と法螺を吹く人々(福島県南相馬市)	黙とうする人々(福島県楡葉町)(☆日本地図)
8				かさ上げ工事と海(福島県南相馬市)	国立劇場壇上慰霊台

## 2017

	NHK総合	日本テレビ	テレビ朝日	TBS	フジテレビ
1	国立劇場壇上慰霊台	黙とうする人々(岩手県宮古市田老)	国立劇場壇上慰霊台	国立劇場壇上慰霊台	国立劇場壇上慰霊台
2	国立劇場内閣僚	黙とうする人々(宮城県南三陸町さんさん商店街)	国立劇場内閣僚	国立劇場内閣僚	国立劇場内閣僚
3	国立劇場秋篠宮夫妻	黙とうする人と海(福島県浪江町請戸)	黙とうする人々(岩手県宮古市田老地区)	海(岩手県大槌町)	黙とうする人々(福島県浪江町追悼式会場)
4	国立劇場内閣僚ほかの人々	福島第一原発排気塔(福島県浪江町請戸)	黙とうする工事作業員(岩手県宮古市田老地区)	黙とうする人々(岩手県大槌町)	黙とうする人々(宮城県仙台市勾当台公園)
5	国立劇場内遺族代表	黙とうする子どもたち(岩手県釜石市鶴住居小学校)	黙とうする工事作業員(岩手県陸前高田市)	大川小学校(宮城県石巻市)	黙とうする人々(宮城県南三陸町さんさん商店街)
6	国立劇場壇上慰霊台	黙とうする人々(福島県浪江町追悼式会場)	防災対策庁舎(宮城県南三陸町)	大川小学校建物(宮城県石巻市)	黙とうする人々(岩手県宮古市田老防潮堤)
7		壇上慰霊台(福島県浪江町追悼式会場)	黙とうする僧侶たち(宮城県南三陸町)	小学校前で黙とうする人々(宮城県石巻市)	国立劇場壇上慰霊台
8		黙とうする人々(宮城県石巻市日和山)	黙とうする人々(宮城県石巻市)	演台で黙とうする東電幹部(福島第一原発)	
9		黙とうする子どもたち(岩手県釜石市鶴住居小学校)	空き地と海(福島県浪江町)	黙とうする東電職員たち(福島第一原発)	
10		黙とうする人々の後ろ姿(岩手県宮古市田老)	旧大川小学校(宮城県石巻市)	国立劇場壇上慰霊台	
11		黙とうする人々(岩手県宮古市田老)			
12		黙とうする人々(宮城県石巻市日和山)			

## 2018

	NHK総合	日本テレビ	テレビ朝日	TBS	フジテレビ
1	国立劇場壇上慰霊台	岩手県大槌町旧役場庁舎	国立劇場壇上慰霊台	国立劇場壇上慰霊台	国立劇場壇上慰霊台
2	国立劇場内閣僚	黙とうする人々(宮城県石巻市日和山)	国立劇場内閣僚	国立劇場内閣僚	国立劇場内閣僚
3	国立劇場秋篠宮夫妻	軌跡の一本松(岩手県陸前高田市)	黙とうする人々(岩手県宮古市田老地区)	国立劇場秋篠宮夫妻	国立劇場秋篠宮夫妻
4	国立劇場内遺族代表	黙とうする人々(宮城県東松島市)	軌跡の一本松-黙とうする人々(岩手県陸前高田市)	国立劇場 黙とうする語り部の瀬戸元さん	黙とうする人々(宮城県名取市開上中学校)
5	国立劇場壇上慰霊台	黙とうする人々(岩手県宮古市田老)	黙とうする人々(宮城県南三陸町)	防災対策庁舎(宮城県南三陸町)	黙とうする人々(福島県いわき市南台応急仮設住宅)
6		黙とうする人々(岩手県大槌町追悼式会場)	キャンドル-黙とうする人々(宮城県石巻市)	慰霊祭慰霊台(福島県富岡町)	黙とうする人々(岩手県宮古市田老防潮堤)
7		福島第一原発排気塔(福島県浪江町請戸)	黙とうする人々-福島第一原発排気塔(福島第一原発)	浄土寺-黙とうする人々(岩手県陸前高田市)	黙とうする人々(宮城県南三陸町さんさん商店街)
8		黙とうする捜索隊の人々(福島県南相馬市)			国立劇場壇上慰霊台
9		黙とうする人々(岩手県大槌町)			

写真19 テレビ朝日 3月11日午後2時46分黙とう中の映像



※場面が切り替わるごとに時計の映像が挿入される





表19 3月11日午後2時46分を含む番組のタイトル映像

	2012年		2013		2014		2015	
NHK総合	明日へー支えあおうー 震災から1年(第4部)	13:05 ～ 16:25	特集 明日へー支え あおうー 東日本大震 災から2年(第3部)	14:38 ～ 16:00	情報まるごと	14:05 ～ 15:35	情報まるごと	14:05 ～ 15:35
		被災地の写真		津波跡		かさ上げされた土地		慰霊碑
日本テレビ	復興テレビ みんなのチカラ3.11 (第1部)	12:45 ～ 17:25	情報ライブ ミヤネ屋	13:55 ～ 15:50	情報ライブ ミヤネ屋	13:55 ～ 15:50	情報ライブ ミヤネ屋	13:55 ～ 15:50
				津波跡		海		
テレビ朝日	つながろう!ニッポン (第2部)スーパーJ チャンネルスペシャル	13:00 ～ 16:00	スーパーJチャンネル スペシャル～“震災”い まも…732日目の現実 ～(第1部)	13:55 ～ 16:54	スーパーJチャンネル スペシャル 東日本大 震災から3年	13:55 ～ 19:00	スーパーJチャンネル スペシャル “4年後” のすがた	14:00 ～ 19:00
		津波跡と時計		海		請戸小学校		防災対策庁舎
TBS	Nスタ×NEWS 23クロス 3.11絆スペシャル	13:54 ～ 16:24	大震災2年 復興と現 実 被災地の「今」あ なたは知っていますか (第1部)	14:05 ～ 17:00	報道特別番組 震災3年 復興と未来 “これから”のために	14:00 ～ 15:50	大震災4年 Nスタス ペシャル 被災地の今、 思いあらたに	13:55 ～ 15:53
		第18共徳丸		被災地の写真				防災対策庁舎
フジテレビ	報道特別番組 東日本大震災から1年 希望の轍	12:00 ～ 16:00	FNN報道特別番組 希望の轍2013 東北を歩こう	14:00 ～ 15:52	FNN東日本大震災か ら3年 あの日が教え てくれること	14:00 ～ 16:50	FNN報道特別番組 震災と原発と日本の覚 悟	14:00 ～ 16:50
		三陸鉄道		三陸鉄道		津波跡		福島第一原発

太字は特別編成(特設・拡大) 関連報道のないテレビ東京は省略

2016		2017		2018	
特集 明日へ～つなげよう～東日本大震災から5年(第3部)	14:05 ～ 15:31	特集 明日へ～つなげよう～東日本大震災から6年(第1部)	13:50 ～ 15:26	特集 明日へ～つなげよう～東日本大震災から7年	13:05 ～ 17:00
					
情報ライブ ミヤネ屋 震災5年 復興の現在地	13:55 ～ 15:50	news every. 特別版 震災6年 未来への、キオク	13:30 ～ 15:00	news every. 特別版 東日本大震災から7年 災害の新常識	13:15 ～ 15:00
					
スーパーJチャンネル スペシャル 東日本大震災から5年～全編LIVE "25"のいま～	14:00 ～ 19:00	スーパーJチャンネル スペシャル 映像が語る "あのとき"	13:59 ～ 15:30	ANN報道特別番組 東日本大震災から7年 スーパーJチャンネル スペシャル	13:55 ～ 15:20
					
Nスタ 3.11 震災5年 記憶を未来へ伝える力	13:55 ～ 15:53	3.11 7年目の真実	14:00 ～ 15:54	Nスタスペシャル 震災7年 生死を分ける72時間 巨大地震にあなたは	14:00 ～ 15:54
					
直撃LIVE グッディ!	13:55 ～ 15:50	FNN報道特別番組 日本を襲う巨大地震 忘れていないか3.11	14:00 ～ 15:30	FNN3・11報道特番 その避難は正解か!?	13:00 ～ 15:10
					

表20 3月11日午後2時46分を含む番組のラストコメント

	2012年		2013		2014		2015	
NHK総合	明日へ 一支援あおうー 震災から1年(第4部)	13:05 ～ 16:25	特集 明日へ 一支援 あおうー 東日本大震 災から2年(第3部)	14:38 ～ 16:00	情報まるごと	14:05 ～ 15:35	情報まるごと	14:05 ～ 15:35
	さてこのあとは、ニュース、大相撲を 挟みまして、「明日へ支援あおう」は 6時10分にまたお目にかかりま す。		「明日へ支援あおう」、2日間にわ たってお伝えしました。これからも、 被災地のことを伝え続けてゆきま す。		今日の「情報まるごと」は被災地 の今を中心に、時間を延長してお 伝えしました。		東日本大震災から4年です。さまざ まな声を聞きました。これからも被 災した人々の声を聞き続けなけれ ばならないと感じます。「情報まる ごと」、またお目にかかります。	
日本テレビ	復興テレビ みんなのチカラ3.11 (第1部)	12:45 ～ 17:25	情報ライブ ミヤネ屋	13:55 ～ 15:50	情報ライブ ミヤネ屋	13:55 ～ 15:50	情報ライブ ミヤネ屋	13:55 ～ 15:50
	「復興テレビ第2部」、このあと午後 6時からです。		今日はこの南相馬の小高にお邪 魔したんですが、まあ、正直私この 2年ね、テレビの無力さっていうの も感じましたけども、何かできること があれば引き続き、みなさんと一緒 に頑張っていきたいと思えますん で、今後もよろしくお願ひいたしま す。東北のみなさん、どうもありが とございました。明日もまたご覧くだ さい。		我々「ミヤネ屋」も少しでもお力に なれればと思っております。今日は どうもありがとうございました。		我々もほんとは微力ですが、少しでも 力になればと思っております。	
テレビ朝日	つながろう!ニッポン (第2部)スーパーJ チャンネルスペシャル	13:00 ～ 16:00	スーパーJチャンネル スペシャル～“震災”い まも…732日目の現実 ～(第1部)	13:55 ～ 16:54	スーパーJチャンネル スペシャル 東日本大 震災から3年	13:55 ～ 19:00	スーパーJチャンネル スペシャル “4年後” のすかた	14:00 ～ 19:00
	今日は南三陸町から中継を中心 にお伝えしてまいりました。「スー パーJチャンネルスペシャルつなが ろう!ニッポン」、第2部でした。第3 部「フラガール涙と笑顔の1年間」 どうぞご覧ください。		先ほど上山キャスターが気仙沼市 からお伝えしました「3.11からのヒ カリプロジェクト」、3つの光の柱に は、追悼と復興の願いが込められ ています。深夜零時まで灯される ということですよ。		宮城県石巻市の中心部に近い 門脇町では、地域の有志が震災1 か月後に立てた「がんばろう石巻」 の看板前で、震災の犠牲者を追 悼する1,500個のキャンドルの灯 りに包まれています。それでは「J チャンネル」、また明日お会いしま す。		今日3月11日は震災から丸4年と いうことで、被災地のさまざまな思 い、そして課題などを中心にお伝え してまいりました。ご覧いただいで いるのは岩手県山田町の港です。 さきほど午後6時に黙とうを捧げた あと、震災で失った家族らへの思い をつづつた灯ろうを海に向かって流 し、犠牲者への追悼を行いました。 では、また明日お会いします。	
TBS	Nスタ×NEWS23クロス 3.11絆スペシャル	13:54 ～ 16:24	大震災2年 復興と現 実 被災地の「今」あ なたは知っていますか (第1部)	14:05 ～ 17:00	報道特別番組 震災3年 復興と未来 “これから”のために	14:00 ～ 15:50	大震災4年 Nスタス ペシャル 被災地の今、 思いあらたに	13:55 ～ 15:53
	これからも「Nスタ」そして「NEWS23」 クロスでは、被災された人々の今を 思い、そして復興の進み具合をしっ かりと見守りお伝えしながら、メデ ィアとしての役割を果たしていきたい と考えております。		みなさんの復旧に向けた強い思 い、感じ取っていただけたと思いま す。さて。ここまで、宮城・気仙沼を 拠点にお伝えしてまいりました。		災害を自分の問題として考えるこ とが備えにつながるのです。		ここまで、「被災地の今、思いあらた に」と題してお伝えしてまいりまし た。こちらの映像を見ながらお別れ です。ありがとうございました。	
フジテレビ	報道特別番組 東日本大震災から1年 希望の軌	12:00 ～ 16:00	FNN報道特別番組 希望の軌2013 東北を歩こう	14:00 ～ 15:52	FNN東日本大震災か ら3年 あの日が教え てくれること	14:00 ～ 16:50	FNN報道特別番組 震災と原発と日本の覚 悟	14:00 ～ 16:50
	それでも子どもたちは、元気いっば いに生きています。ことばにできな かった思いを、あの歌に託して。		依頼を受け石川さんは工場を再 開。2年前に止めた歩みを、今、ま た1歩、進めようとしている。		多くの犠牲を代償に3年前のあの 日は命を守るために何をすべきか、 私たちに教えてくれます。今日は、 西田さん、山村さん、どうもありが とございました。		どんなに打ちひしがれても、人は立 ち上がり、また歩き出すのです。ま もなく被災地には5年目の春が来 ます。	

太字は特別編成(特設・拡大)、関連報道のないテレビ東京は省略

2016		2017		2018	
特集 明日へ～つなげよう～東日本大震災から5年(第3部)	14:05 ～ 15:31	特集 明日へ～つなげよう～東日本大震災から6年(第1部)	13:50 ～ 15:26	特集 明日へ～つなげよう～東日本大震災から7年	13:05 ～ 17:00
東日本大震災の追悼式の模様を国立劇場からお伝えしました。		東日本大震災の追悼式の模様を国立劇場からお伝えしました。		これから本格的に街づくりが始まります。たいせつなものを改めて、みなさんも私たちも考えていきたいと思えます。今日はほんとうに、みなさん、長時間ありがとうございます。	
情報ライブ ミヤネ屋 震災5年 復興の現在地	13:55 ～ 15:50	news every. 特別版 震災6年 未来への、キオク	13:30 ～ 15:00	news every. 特別版 東日本大震災から7年 災害の新常識	13:15 ～ 15:00
この榎葉もまだわずかな人しか帰っていないということなんです。来年にはもっともっと多くの方が帰っていることを願いたいと思います。榎葉町から、今日は「ミヤネ屋」,お送りしました。		地震はまた絶対起きて津波が来る。あの恐ろしく悲しく絶望的な経験を伝え続けなければいけません。でも私たちは少しだけ忘れ始めています。100年先、私たちは生きていないでしょう。でもこの堤防がいつか命を救い、言い伝えが100年後の子どもたちを守ったとしたらそれでいい、お水飲んでいい?、と子どもに言わせない未来を作る責任が、私たちにもみなさんにもあります。		被災地で今私たちができることは決して多くないでしょう。でも、絶対に忘れてはいけません。来年もその先も、3.11だけは、ここに思いを届けてください。来年も被災地から中継します。ぜひ、見てください。ありがとうございました。	
スーパーJチャンネル スペシャル 東日本大震災から5年～全編LIVE "25"のいま～	14:00 ～ 19:00	スーパーJチャンネル スペシャル 映像が語る "あのとき"	13:59 ～ 15:30	ANN報道特別番組 東日本大震災から7年 スーパーJチャンネルスペシャル	13:55 ～ 15:20
岩手県陸前高田市では、イルミネーションとキャンドルを灯し、津波の犠牲になった人々を追悼し、復興や未来への思いを託すイベントが開かれています。それでは、また来週です。		大勢の生徒たち、子どもたちが学んでいた子の学び舎は、とにかく津波から高いところへ逃げろということ学ぶ学び舎になる、もっとも大事な場所じゃないでしょうか。今日は、吉岡さんありがとうございます。「スーパーJチャンネルスペシャル」をお伝えてまいりました。		そして、私たちも取材を続け、これからも報告をしていくつもりです。特別番組、最後までご覧いただきありがとうございました。吉岡さん、ありがとうございました。	
Nスタ 3.11震災5年 記憶を未来へ伝える力	13:55 ～ 15:53	3.11 7年目の真実	14:00 ～ 15:54	Nスタスペシャル 震災7年 生死を分ける72時間 巨大地震にあなたは	14:00 ～ 15:54
5年経っても10年経っても20年経っても、私たちは大震災の記憶と教訓を未来にいかにつなげていくのか、そして我々がどう行動していくのか、それを考えなければいけないと思います。ここまで「Nスタ 3.11震災5年 記憶を未来へ伝える力」をお送りしました。		震災から6年。みんな、それぞれの経験や思いを胸に、一步一步、前に進んでいます。		あの72時間の教訓を、今に、そして未来につなげたい。大切なのは忘れないこと。今、問いかけます。巨大地震にあなたは?	
直撃LIVE グッディ!	13:55 ～ 15:50	FNN報道特別番組 日本を襲う巨大地震 忘れていないか3.11	14:00 ～ 15:30	FNN3・11報道特番 その避難は正解か!?	13:00 ～ 15:10
防潮堤を作らないということは、またあの危険なものに襲われる可能性があるかもしれない。でも、それでもやはり海を愛している女川の人たちは、その選択をされたんだと思います。私たちはその選択に敬意を表して、今日は宮城県女川町から「グッディ!」お送りしました。		被災地に思いを馳せることが、我々の備えにもつながるという意識、持ちたいですね。みなさん、今日はありがとうございます。		巨大地震は必ずやってきます。私たちは常にそのことを忘れないようにしなければなりません。その時、どこに避難したらいいのか、ご自身で確認していただきたいと思えます。	

「多くの犠牲を代償に3年前のあの日は命を守るために何をすべきか、私たちに教えてください」(2014年フジテレビ「FNN東日本大震災から3年 あの日が教えてくれること」)などのように、震災を教訓として備えに生かすことを訴える番組が現れ始める。

2015年以降も、

「これからも被災した人々の声を聞き続けなければならないと感じます」(2015年NHK「情報まるごと」)

「これから本格的に街づくりが始まります。たいせつなものを改めて、みなさんも私たちも考えていきたいと思います」(2018年NHK「特集 明日へ～つなげよう～東日本大震災から7年」)

「そして、私たちも取材を続け、これからも報告をしていくつもりです」(2018年テレビ朝日「ANN報道特別番組 東日本大震災から7年 スーパーJチャンネルスペシャル」)のように、被災地に寄り添い続ける気持ちを表明する番組がある一方、

「5年経っても10年経っても20年経っても、私たちは大震災の記憶と教訓を未来にいかに伝えて生かしていくのか、そして我々がどう行動していくのか、それを考えなければいけないと思います」(2016年TBS「Nスタ3.11震災5年 記憶を未来へ伝える力」)

「被災地に思いを馳せることが、我々の備えにもつながるという意識、持ちたいですね」(2017年フジテレビ「FNN報道特別番組 日本を襲う巨大地震 忘れていないか3.11」)

「あの72時間の教訓を、今に、そして未来につなげたい。大切なのは忘れないこと。今、問いかけます。巨大地震にあなたは？」(2018年TBS「Nスタスペシャル 震災7年 生死を分ける72時間 巨大地震にあなたは」)

「巨大地震は必ずやってきます。私たちは常にそのことを忘れないようにしなければなりません。その時、どこに避難したらいいのか、ご自身で確認していただきたいと思います」(2018年フジテレビ「FNN3・11報道特番 その避難は正解か!?!」)

などのように、自分たちを襲う次の災害への備えに重心が移っている番組がある。

このように、タイトル映像やラストコメントの分析からも、前節でみた「被災地」から「防災」へのシフトの傾向が確認できる。

### Ⅲ-4 第Ⅲ章のまとめ

この章では、分析対象を3月11日に放送された震災関連番組に絞り、中継を含む番組での中継地点やそこに映し出された事物、出演した人物などを分析した。また午後2時46分を含む番組については、内容の推移のほか、映し出された事物や黙とうシーンの分析も試みた。

3月全体や3.11週間と同様、3月11日に放送される震災関連番組も減少しており、被災地からの中継を含む番組も減っている。

中継地点として選ばれる場所は、3.11週間の報道内容の分析でみられたのと同様に、一定の市や町に集中していることがわかった。

そして、それら中継地点に選ばれた場所には、東日本大震災や福島第一原発事故を象徴的に示す事物が存在していた。

象徴として使われる映像は、風景や場所に限らず、放射能汚染を示す「防護服」や「線量計」、除染廃棄物を入れた「黒い袋」などや、時の経過やその時点で時が止まっていることを示す「時計」、鎮魂や追悼を示す「キャンドル」や「風船」の映像なども多用されていた。

こうした映像の使用には、福島第一原発の排

気塔を見渡す福島県浪江町の映像や、黙とうシーンの映像構成のように、ある種のパターン化がみられた。

中継地点での出演者として、被災者の出演は減少した。タレントの起用は続いているが、民放では減少傾向も見受けられた。

3月11日午後2時46分を含む番組で扱われるテーマは、当初の被災地の状況や被災者の生活を伝えるものから、被災時の状況を検証し、次の災害に備えるものへと徐々に比重が移ってきている。



## まとめと考察

### IV-1 本稿検証のまとめ

東日本大震災の発生からまもなく8年を迎える。

本稿では、震災が発生した3月11日を中心に、その日を中心とする1週間、3月11日当日、そして発災時刻である午後2時46分を含む番組へと焦点を絞りながら、2018年までの7年間の報道の推移を検証した。

毎年3月11日の発災日を中心とした1週間は、その年の中では震災関連の報道が最も集中する時期だが、それでもその量は、確実に減少してきている。

報道内容の推移をみると、7年経って、岩手、宮城に関わる報道と福島のそれでは、明らかな違いが出てきていた。

発災から数年の間は、どの被災地においても「復興の遅れ」やそれによる被災者への悪影響が指摘され続けたが、2015年以降になると、岩手、宮城に関しては、徐々に復興を感じさせる明るい話題が増えてきた。しかし、福島に関しては、

原発事故が引き起こした数々の問題が解決されないうえに、除染廃棄物の貯蔵と処理、避難者に対するいじめ、避難指示解除と帰還など新たな課題が浮かび上がっているほか、福島以外の原発再稼働など被災地、被災者にとどまらず問題が拡散・複雑化する状況が続いている。

被災地はたいへん広範囲に及んだが、報道される地域については、3月11日を中心とする週全体の分析においても、3月11日の震災関連番組の分析においても、岩手県陸前高田市、宮城県石巻市、気仙沼市、南三陸町といった市や町が多く伝えられていた。

過去の先行研究にもみられるが、一定の地域に報道が集中する傾向が確認された。特に中継地点として多く登場した陸前高田市や石巻市、南三陸町などには、それぞれ「奇跡の一本松」(陸前高田市)や「大川小学校」(石巻市)、「防災対策庁舎」(南三陸町)など、震災を象徴する事物が存在していた。

また、震災や被災地、被災者を表現する語句や映像に、常套句化、定型化する傾向がみえてきた。

語句の場合、例えば「津波で被害を受けた〇〇市」という表現は、2012年、2013年には、その被害の影響や被災地の状況を伝えるために用いられていたが、2017年ごろになると〇〇市の現在の状況や課題を語ることが主題であり、「被害を受けた」は〇〇市を修飾する枕詞のように使われている。

また映像に関しては、例えば、福島県浪江町請戸漁港から見える「福島第一原発排気塔」をレポートの冒頭や末尾に使うなど、パターン化した映像の使用がみられた。岩手県陸前高田市の「奇跡の一本松」や、宮城県南三陸町の「防災対策庁舎」なども同様であり、こうした震災を象徴する事物の映像が多用されていた。さらに、

放射能汚染を象徴する記号として「防護服」や「線量計」、震災の記憶や時間の経過を示す記号として「時計」、犠牲者への追悼や鎮魂を示す記号として「キャンドル」や「風船」などの映像も使われていた。

特に映像の「記号化」に関しては、視聴者の記憶を呼び起こし、視聴者と被災地をつなぐ装置として必要なものともいえるが、一方で、3月11日とその後の事象を一定の枠の中にとどめてしまい、理解の幅を狭める危険性もある。中継地点がいくつかの場所に集中することとも併せて、より多角的な表現に期待したい。

3月11日当日の関連番組についてみるとその数は減少してきており、特別番組や枠拡大の措置も少なくなってきた。定時番組の中での特集として震災関連を取り上げるなど、伝え続ける工夫はなされているが、視聴率も、震災後数年ほどには伸びなくなっている。

そうした中、震災関連番組の内容は、被災地の様子や被災者の状況を伝えるものから、次に起こるかもしれない災害への備えや防災・減災に比重が移りつつあるようだ。

東日本大震災以降、大規模な自然災害が続けざまに起きている。2016年4月に熊本地震が発生、2018年6月には大阪府北部でも大きな地震が発生したのに続き、同年9月には北海道で震度7を記録する大地震が発生した。地震だけでなく、2014年8月には、豪雨による広島市の土砂災害、2018年7月には西日本豪雨による岡山県、広島県、愛媛県などの土砂災害、さらに北海道地震の前日の、台風による関西地方の被災など、豪雨や暴風による災害も大規模化している。

このように、次々と自然災害が発生し、被災地と呼ばれる地域が増える中、東日本大震災の被災が相対化され、遠景化していくのは、ある意

味、仕方がないことなのかもしれない。しかし、あの未曾有の壊滅的な被害の記憶と、被災した人々が、今どのような課題に直面しているのかを、放送が伝え続ける使命はまだまだある。そして、3.11を経験したからこそ、今後の災害への教訓として生かしていくことが求められるだろう。そのためには、3月11日やその周辺を1つの手がかりとして記憶を新たにし、他人事ではなく自分たちの問題として防災への意識を高める必要がある。

とはいうものの、被災地の記憶や現状、将来に軸足を置くべきか、「明日は我が身」の防災対策に軸足を置くべきか、一概にはどちらがよいとは言えない。表19で示した3.11特番のタイトル映像で、2012年、2013年は「希望の轍」であったフジテレビが、2018年には「その避難は正解か!?!」に変化していることに象徴されるが、あの大地震が発生した当日をどう描くのか、人々にどう見られていくのか、今後もしっかりと見届けていきたい。

3.11はいかに語り継がれるのか。

震災から5年が経とうとしていた2016年2月、社会学者の吉見俊哉は、新聞の社会時評欄にこう書いている。

「…ところがここ数年、あれほど痛烈だったはずの震災の記憶が、人々の意識から急速に薄れてきた。マスコミも、もはや震災も原発事故も売れ筋ではないと考えているらしい。驚くべき健忘症のなかで、人々はますます自分を見失っていく」(吉見2018, pp.132-133)

メディアの当事者からも同様の懸念が示されている。

「『風化』とは時を経るにつれ記憶が薄れていくことだが、被災地とそれ以外の場所で、果たして流れている時間の速さは同じだろうか。今この国全体で起きているのは、風化というより



は『忘却』や『断絶』だとさえ思えてならない」(磯崎2016, p.24)

「3月13日、…全国からの報道陣でごった返した11日のわずか2日後だが、テレビのニュースに震災の話題はほとんどない。年を追うごとに『記念日化』していく震災報道が、震災の風化の一端を感じさせた」(太田代2017, p.12)

2021年、東日本大震災の発生から10年の節目を迎える。その前年には、東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定されている。未曾有の災害といわれた東日本大震災は、そのころ、どのように語り継がれ、人々にどう記憶されているのだろうか。

吉見は、前掲書で「記憶が未来へのかけがえのない資産となり得る」ことを何度も強調している。東日本大震災や原発事故を経験したことが、未来への備えとして、人々の記憶に残り続け、より豊かな未来を構想する資産となり得るよう、テレビをはじめとするメディアが果たすべき役割は大きい。その役割を果たし続けることができているかどうか、検証を続けたい。

最後に、今後の作業に向けた課題をまとめて、この稿の締めくくりとしたい。

## Ⅳ-2 今後の分析に向けて

まず、検証に用いたデータに関する問題である。

今回の検証作業、特に第Ⅱ章では、震災関連番組に付されたメタデータを対象に、単語や係り受けのテキスト件数を抽出して示した。この場合、本稿でたびたび指摘したように、「常套句」となった表現がランキングの上位を占める結果となる。その単語や係り受けが意味するものを読み解き、より正確に内容の推移を分析するためには、番組内容の要約であるメタデータの

記述に当たらねばならない。さらに厳密な分析とするためには、メタデータからさらにさかのぼって各番組の映像でのナレーションや出演者の発言を確認する必要がある。分析ソフトによるキーワード抽出は、あくまでその後の詳細な分析のための手がかりにすぎない。本稿では、極力その作業を行って確認するように努めたが、すべての分析にその作業を行うことは、不可能とってよい。

しかも、今後の作業において、例えば10年分のデータとなれば、対象データの量はいっそう膨大になる。メタデータを使用した分析をいかに効率よく、しかも正確に行うか、同様の手法を用いた研究との比較など、手法の改善・精緻化が求められる。

また、第Ⅲ章では、映像についての分析を試みたが、どのような映像がどういう文脈で使用されているかという概観を記載するにとどまった。映像の分析については、まだその手法も定かではなく、これから模索していくべき大きな課題といえる。震災を象徴する事物は、今回分析した事例のほかにも「がれき」「津波跡地」「打ち上げられた船」、そして「押し寄せる津波」「流される家や車」など、さまざまな映像が対象として浮かび上がる。それらをどう定義し、どのように抽出し、どう計量するか。さらに、それらの映像がどのような文脈で用いられ、どのようなコメントが付されているのか、など、分析の視点や方向性もさまざまに検討しなければならない。

また、この検証作業の対象をどの範囲とするかという問題もある。

近年、次々と災害が起こる中で、「震災」や「地震」というキーワードでのデータ収集では、他の災害を数多く含むことになる。今回の分析では、東日本大震災には触れず熊本地震などそ

の他の地震のみを扱った報道は対象から除外した。しかし、今後、そうした他の地域、他の災害に関する報道をも含めた分析を考慮する必要があるのではないかと。災害の規模や場所による報道傾向の違い、前の災害のどのような点が教訓として生かされていたか、など、各種の災害およびその報道を比較することからみえてくることも多いに違いない。

だが、これも、作業量はさらに膨大になり、分析作業も複雑になる。

最後に、今回の研究ではあえて、メタデータと放送で表象された映像と言語のみを分析対象とした点について述べておく。制作現場の思いや事情（主観）を排除することで、この7年の変化を、視聴者目線に立ち、極力客観的にとらえようとした。しかし、確信のある結論に至

らない分析結果も複数浮かび上がった。今後の検証では、震災関連番組の制作者への聞き取りも行い、年を経るごとに、現場の方針がどう変わり、どのような試行錯誤がなされているかを知る必要を感じている。それにより、同じデータであっても、新たな視点での読み解きもできるのではないかと期待している。そのためにも、本稿の内容を震災関連番組の制作者たちと共有し、率直な意見交換をしたい。この震災報道の研究分析に関わる者がさらに広がることを切に願う。

このように次の検証に向けて、検討すべき課題は多々残されているが、「記憶」を「未来への資産」とするために、「災害報道の検証」を重ねていきたいと思う。

（はら ゆみこ／おおたか たかし）

## 注:

- 1) 原由美子「震災後3年間 テレビ番組で何が伝えられてきたのか〜ドキュメンタリー番組に描かれた被災者、被災地〜」(NHK放送文化研究所年報2015), 原由美子「東日本大震災から5年 テレビ番組は何を伝えてきたか〜夜のキャスターニュース番組とドキュメンタリー番組〜」(NHK放送文化研究所年報2017)
- 2) 2018.12.14調べ
- 3) 論文・記事のタイトルから内容を類推して選出した。また既存マスメディアに関するもの限定し、インターネットやソーシャルメディア、コミュニティーメディアなどに関するものは除外した。雑誌記事のうち、インタビュー、座談会、シンポジウム採録は除外した。
- 4) 日本大学法学部新聞学研究所のグループ、法政大学サステナビリティ研究所のグループなど
- 5) 時間量等の数量的分析にIBM SPSS Statistics 21を使用。メタデータのテキスト分析(テキストマイニング)に野村総研TRAINAを使用した。
- 6) 「エネルギー」という語が含まれていても、中東関係のニュースなど、震災や原発とまったく関係のないものはノイズとして処理した。
- 7) (2018.11.7時点・資源エネルギー庁「原子力発電所の現状」より)  
[http://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity\\_and\\_gas/nuclear/001/pdf/001\\_02\\_001.pdf](http://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/nuclear/001/pdf/001_02_001.pdf)
- 8) 長時間番組にニュース等が合間に入って前後編あるいは第1・2部などのように区切られた場合、別番組としてカウントした。

## 引用文献:

- 磯崎由美(2016)「『忘却』『断絶』意識し復興を検証—メディアの力は今後一層試される」『新聞研究』No.777, 日本新聞協会
- 太田代剛(2017)「『忘れない』ことが報道の原点—風化と闘い続ける決意胸に」『新聞研究』No.789, 日本新聞協会
- 加藤徹郎(2017)「3月ジャーナリズムの中で、ニュースは何を話し・語り・伝えてきたのか〜東日本大震災・テレビ報道アーカイブにおけるメタデータの語用論」『Journalism & Media No.10』日本大学法学部新聞学研究所
- 田中孝宜・原由美子(2012)「東日本大震災 発生から72時間 テレビが伝えた情報の推移〜在京3局の報道内容分析から〜」『放送研究と調査』2012年3月号
- 原由美子(2015)「震災後3年間 テレビ番組で何が伝えられてきたのか〜ドキュメンタリー番組に描かれた被災者、被災地〜」『NHK放送文化研究所年報2015 No.59』
- 原由美子(2017)「東日本大震災から5年 テレビ番組は何を伝えてきたか〜夜のキャスターニュース番組とドキュメンタリー番組〜」『NHK放送文化研究所年報2017 No.61』
- 吉見俊哉(2018)『戦後と災後の間—溶融するメディアと社会』集英社
- 米倉律(2017)「震災テレビ報道における情報の『地域偏在』とその時系列変化」『Journalism & Media No.10』日本大学法学部新聞学研究所
- 広辞苑 第一版(1955), 第三版(1983) 新村出編 岩波書店

付表1 東日本大震災のマスメディア報道に関連した論文・記事

## 【雑誌 特集】

著者・編者	論文名	書名	出版社	出版年月
寺島英弥	再び「つながるメディア」めざして 大震災下の地元紙・河北新報	ジャーナリズム (特集 東日本大震災と災害報道)	朝日新聞社	2011年6月
五十嵐大介	NZ地震でもあった過熱取材 地元メディアの「寄り添い」に共感	同上	同上	同上
竹内敬二	「原発が減る時代」のメディアは制度変革の主体を育てる報道を	同上	同上	同上
尾崎敦	特別紙面「希望新聞」の取り組み～情報のライフラインとしての活字メディア	新聞研究 (東日本大震災と報道 (第2回))	日本新聞協会	2011年7月
吉岡斉	マスメディアと「三重の壁」…福島原発事故にみる報道の役割と課題	同上	同上	同上
関谷直也	震災時における報道、メディアの課題～地域情報、風評被害、広告の観点から～	同上	同上	同上
新聞協会事務局・避難所取材班	避難所における新聞・メディア～被災者への聞き取り調査の結果から	同上	同上	同上
武田徹	真に公正かつ公益的なジャーナリズムとは	調査情報 (そのとき それから 私たちは何を伝えたか 東日本大震災と放送メディア)	TBSテレビ	2011年7月
下村健一	菅内閣の情報発信	同上	同上	同上
眞下卓也	大きすぎて捉えきれない	同上	同上	同上
武田弘克	未だ蘇る声	同上	同上	同上
松原耕二	言葉を探し続ける	同上	同上	同上
鈴木宏友	震災特番Web配信	同上	同上	同上
小島慶子	3.11 スタジオが揺れた日	同上	同上	同上
崎山敏也	原発と向き合う	同上	同上	同上
大井健郎	果たせなかった使命 反省の上に今こそ	GALAC (検証!東日本大震災とメディア (前編))	放送批評懇談会	2011年9月
遠藤隆	継続すること 積み重ねること	同上	同上	同上
後藤義典	福島で伝える 福島を伝える	同上	同上	同上
高瀬毅	東日本大震災で見たラジオの役割と課題 ラジオは何を伝え、どう聴かれたのか	同上	同上	同上
神保哲生	原発報道の問題点 すべては事故以前の報道に起因する	同上	同上	同上
	首都圏情報を伝え続けたメディア	同上	同上	同上
小林直毅	テレビの震災報道を検証する 映像の可能性を駆使して持続的な報道を	GALAC (検証!東日本大震災とメディア (後編))	放送批評懇談会	2011年10月
山田賢一	駐日特派員10人に聞く 外国メディアが見た東日本大震災	同上	同上	同上
中手聖一・吉富志津代・熊谷ともみ	震災報道への注文・提言 被災地で求められるメディアの役割	同上	同上	同上
毛利嘉孝	東日本大震災とメディアの問題点	学術の動向 (特集1東日本大震災への対応②東日本大震災と報道メディア)	日本学術協財団	2011年12月
遠藤薫	東日本大震災とメディア～何が何をどのように伝えたか～	同上	同上	同上
山崎登	NHKの災害報道 東日本大震災の衝撃～正確で迅速な情報を分かりやすく～	放送文化 2011夏 (総力特集 東日本大震災 そのときメディアは)	NHK出版	2011年7月
戸田桂太	テレビ番組評価サイト「QUAE」大震災報道は視聴者にどう見られたか	同上	同上	同上
草野厚	震災報道を検証する 議論、批判する姿勢の欠けたテレビ報道	同上	同上	同上
藤岡伸一郎	震災時のメディア 真の意味での震災報道とは?	同上	同上	同上

石井彰	災害とラジオ 被災者の声を伝える継続的な放送を	同上	同上	同上
熊谷徹	海外メディアの震災報道 ドイツメディアの過熱報道に見えたもの	同上	同上	同上
福田充	東日本大震災における災害情報とメディア被災地調査からの検証	ジャーナリズム&メディア 5 (特集 東日本大震災 地元メディアの危機と対応)	日本大学法学部新聞学研究所	2012年3月
藁田吉昭	広告の現場から 東日本大震災直後の情報啓開	同上	同上	同上
鈴木雄雅・沈霄虹・李宰豪	東日本大震災(特に福島原発事故)に関する内外メディアの報道検証 および東アジアにおけるマス・メディアの規範理論構築の研究	メディア展望 (大震災・原発報道を検証メディアは役割を果たしたのか: 新聞通信調査会委託研究を中間報告)	新聞通信調査会	2012年4月
大井眞二・宮脇健	「社会的危機」としての東日本大震災～ニュースメディアの「社会的危機の概念化」に関する実証的研究	同上	同上	同上
ピャ ポンサピタックサンディ	東日本大震災と原発事故に関するタイのメディアの報道	同上	同上	同上
大島慎子	東日本大震災における海外報道の変遷とその影響	同上	同上	同上
林香里	震災後のメディア研究, ジャーナリズム研究～問われる「臨床の知」の倫理と実践の在り方～	マス・コミュニケーション研究 82 (特集 震災後のメディア, ジャーナリズム研究)	日本マス・コミュニケーション学会	2013年1月
橋元良明	調査から見た被災地におけるメディアの役割	同上	同上	同上
大井眞二	大震災後のジャーナリズム・スタディーズ～媒介・メディア化されるリスク・危機・災害	同上	同上	同上
坂田邦子	東日本大震災から考えるメディアとサバルタニティ	同上	同上	同上
林春男	東日本大震災と災害報道	放送メディア研究 11 (特集 進化する災害報道～東日本大震災から3年・メディア多様化時代の防災情報)	日本放送協会放送文化研究所	2014年3月
田中孝宣	東日本大震災報道～NHKの初動から72時間の災害報道を中心に～	同上	同上	同上
目黒公郎・沼田宗純	「現象先取り・減災行動誘導型報道」を実現する方法	同上	同上	同上
七沢潔	操作された「記憶の半減期」～フクシマ報道の4年間を考察する	サステナビリティ研究 5 (特集論文2 震災, 原発事故とメディア)	法政大学サステナビリティ研究所	2015年3月
烏谷昌幸	原子力政策における正当性の境界～政治的象徴としての「平和利用」～	同上	同上	同上
小林直毅	テレビアーカイブとしての震災, 原発危機	同上	同上	同上
西田善行	テレビが記録した「震災」「原発」の3年～メタデータ分析を中心に～	同上	同上	同上
加藤徹郎	生活情報番組における「放射」報道の変化～報道番組アーカイブのメタ・データよりみる人為時事性の考察～	同上	同上	同上
大井眞二	東日本大震災TV映像アーカイブ化の試み～日本大学法学部新聞学研究所のアーカイブ化事業に関する覚書～	ジャーナリズム&メディア 10 (特集 震災映像アーカイブを用いた研究の可能性と課題)	日本大学法学部新聞学研究所	2017年3月
米倉律	震災テレビ報道における情報の「地域偏在」とその時系列変化～地名(市町村名)を中心としたアーカイブ分析から～	同上	同上	同上
原由美子	東日本大震災から5年, テレビのキャスターニュース番組は何を伝えてきたか	同上	同上	同上
加藤徹郎	3月ジャーナリズムの中で, ニュースは何を話し・語り・伝えてきたのか～東日本大震災・テレビ報道アーカイブにおけるメタデータの語用論～	同上	同上	同上
西田善行	放送アーカイブ研究におけるメタデータ活用の試み～震災報道アーカイブ研究から～	同上	同上	同上

□ = 2014年4月以降に発表されたもの

【単発論文】

著者・編者	論文名	書名	出版社	出版年月
寄本好則	東日本大震災被災地からのレポート ワイドショー化したマスメディアは被災地に横たわる真実の痛みを伝えてくれているか。	Japanism	青林堂	2011年4月
NHK放送文化研究所メディア研究部番組研究グループ	東日本大震災発生時・テレビは何を伝えたか	放送研究と調査	日本放送協会放送文化研究所	2011年5月
同上	東日本大震災発生時・テレビは何を伝えたか(2)	同上	同上	2011年6月
中森広道	「東日本大震災」におけるマス・メディアと報道の課題	都市問題	後藤・安田記念東京都市研究所	2011年9月
田中孝宜・原由美子	東日本大震災：発生から24時間 テレビが伝えた情報の推移	放送研究と調査	日本放送協会放送文化研究所	2011年12月
木村幹夫	東日本大震災時にメディアが果たした役割	情報の科学と技術 62巻9号	情報科学技術協会	2012年
伊藤直樹・齋藤恵一・佐々木克孝ほか	被災地のメディアは何を伝え、被災者にどう利用されたのか～民放連研究所「東日本大震災時のメディアの役割に関する総合調査」報告会から	月刊民放	日本民間放送連盟	2012年1月
田中孝宜・原由美子	東日本大震災 発生から72時間 テレビが伝えた情報の推移 在京3局の報道内容分析から	放送研究と調査	日本放送協会放送文化研究所	2012年3月
木幡洋子・齋藤正幸・柴田厚ほか	海外のテレビニュース番組は、東日本大震災をどう伝えたのか 7か国8番組比較調査	放送研究と調査	日本放送協会放送文化研究所	2012年3月
岡村圭子	東日本大震災直後のローカル・メディアの社会的役割～「わたしたちの場所」の情報と紙メディア	地域総合研究 5	獨協大学地域総合研究所	2012年3月
井上裕之	テレビ局は津波避難をどう呼びかけたのか 東日本大震災初期報道のキーワード分析	放送研究と調査	日本放送協会放送文化研究所	2012年6月
山田健太	大規模災害における市民とマスメディア 東日本大震災で市民の知る権利は守られたか	法律時報	日本評論社	2012年6月
宮本聖二	震災をメディアはどう伝えてきたか～東日本大震災アーカイブスの試み～	情報知識学会誌	情報知識学会	2012年4月
	12.7三陸沖地震の放送対応 3.11教訓をどう生かしたか NHK、民放キー4局、被災地3県民放12局アンケート調査全局回答から	New media	ニューメディア	2013年3月
水野泰志	東日本大震災におけるメディアのパラダイムシフト 被災地のフィールドワークに基づく実証的調査研究	ジャーナリズム&メディア	日本大学法学部新聞学研究所	2013年3月
三浦伸也	震災・災害時情報源としてのマスメディアの役割 「311情報学」の試みから	新聞研究	日本新聞協会	2013年5月
井上裕之	「被災者」ではなく「被災した人」 東日本大震災のNHK取材者アンケートから	放送研究と調査	日本放送協会放送文化研究所	2013年9月
遠藤薫	東日本大震災後の選挙と世論とメディア 2013年7月社会意識調査から	学習院大学法学会雑誌	学習院大学	2014年3月
長谷部牧	地域の新しい価値を見いだす 地元メディアの存在意義とは	新聞研究	日本新聞協会	2014年4月
遠藤隆	東日本大震災 被災地若手が今、知りたいこと	New media	ニューメディア	2014年5月
原由美子	震災後3年間 テレビ番組で何が伝えられてきたのか～ドキュメンタリー番組に描かれた被災者、被災地～	放送文化研究所年報59	日本放送協会放送文化研究所	2015年1月
井上能行	震災・原発報道における新聞報道の在り方	情報の科学と技術 65巻1号	情報科学技術協会	2015年
柄本三代子	被ばくの語られ方 テレビジョンにおける「現在」の理解	社会学評論	日本社会学会	2015年

村井源	震災前後の新聞での論調変化の計量分析：エネルギー問題を中心に	情報知識学会誌	情報知識学会	2016年
米倉律	地域メディアが伝える震災と復興 東日本大震災の被災地で活動するジャーナリスト達の5年	日本オーラル・ヒストリー研究	日本オーラル・ヒストリー研究	2016年
磯崎由美	「忘却」「断絶」意識し復興を検証 メディアの力は今後一層試される	新聞研究	日本新聞協会	2016年4月
原由美子	東日本大震災から5年 テレビ番組は何を伝えてきたか～夜のキャスターニュース番組とドキュメンタリー番組～	放送文化研究所年報61	日本放送協会 放送文化研究所	2017年1月
高成田享	復興への視点とメディアへの期待 報道は被災者の使命感を支える	新聞研究	日本新聞協会	2017年4月
山中茂樹	未災の人々に覚悟を求める 大災害時代におけるメディアの使命	新聞研究	日本新聞協会	2018年4月

■ = 2014年4月以降に発表されたもの

付表2 東日本大震災のマスメディア報道に関連した書籍

著者・编者	書名	出版社	出版年月
○ せんだいメディアテーク・仙台市民図書館 (編)	東日本大震災の記録 3.11をわすれないために	せんだいメディアテーク・仙台市民図書館	2012年2月
○	風化する光と影 “メディアから消えつつある震災”の中間報告 東日本大震災特別レポート	マイウェイ出版	2012年4月
○ 福田充 (編著)	大震災とメディア 東日本大震災の教訓	北樹出版	2012年4月
遠藤薫	メディアは大震災・原発事故をどう語ったか 報道・ネット・ドキュメンタリーを検証する	東京電機大学出版局	2012年3月
花田達朗+教育学部花田ゼミ	新聞は大震災を正しく伝えたか 学生たちの紙面分析	早稲田大学出版部	2012年5月
高野明彦・吉見俊哉・三浦伸也	311 情報学 メディアは何をどう伝えたか	岩波書店	2012年8月
○ 山腰修三ほか	大震災・原発とメディアの役割	新聞通信調査会	2013年1月
山田健太	3.11とメディア 徹底検証 新聞・テレビ・WEBは何をどう伝えたか	トランスビュー	2013年3月
○ 丹羽美之・藤田真文	メディアが震えた テレビ・ラジオと東日本大震災	東京大学出版会	2013年5月
○ 原由美子・山田健太・野口武悟 (共編)	3.11の記録：東日本大震災資料総覧 テレビ特集番組篇	日外アソシエーツ	2014年1月
池田謙一 (編)	震災から見える情報メディアとネットワーク	東洋経済新報社	2015年7月
○ 坂田邦子・三村泰一 (編)	被災地から考える 3・11とテレビ	サンパウロ	2016年3月
小林直毅 (編著)	原発震災のテレビアーカイブ	法政大学出版局	2018年3月

○ = 「国会図書館サーチ」-「本」で、「東日本大震災 メディア」[東日本大震災 テレビ]で検索してヒット

■ = 2014年4月以降に発行されたもの

